

# 2

Annual Report 2015

# 診 療 部

外来診療担当表

呼吸器内科

内分泌内科

腎臓内科

神経内科

リウマチ・膠原病センター

糖尿病センター

消化器内視鏡センター

人工透析センター

循環器内科

外科

整形外科

脳神経外科

心臓血管外科

皮膚科

小児科

泌尿器科

耳鼻咽喉科

放射線科

麻酔科

病理部

認知症疾患医療センター

健康増進センター

研修医の紹介

学会発表実績

# 外来診療担当表

◎は新患のみ、○は新患・再診、□は再診のみ  
※2016年7月現在

科名	役職	氏名	月		火		水		木		金		
			午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
内科	呼吸器	診療部長			○	○	◎						
		副部長							○				
	内分泌	非常勤	大財 茂							□			
		//	藤山 薫								○		
		//	安部 恵代							□ 第2週			
	骨代謝	非常勤	藤山 薫									○	
	腎臓内科	医員	上条 将史		◎						□		
		非常勤	林 和歌									○	□
	神経内科	副院長 診療部長	竹尾 剛	□		□		◎				□	
		非常勤	中村 龍文							○ 隔週			
	リウマチ 膠原病 センター	臨床研修-研究 統括部長	植木 幸孝	□	□			○				□	
		センター長	寺田 馨									□	□
		部長	荒牧 俊幸	□						□		◎	
		医員	辻 創介					□		□			
非常勤		一瀬 邦弘			○	□							
//		岩本 直樹			○	□							
糖尿病 センター	//	梅田 雅孝	□										
	センター長	松本 一成	□		□		□		□		◎		
	医長	森 芙美	□						◎				
	医員	徳満 純一			□		◎				□		
	//	重野里代子	◎				□		□		□		
消化器 内視鏡センター	理事長	富永 雅也				□							
	副院長 センター長	木下 昇			○						○		
	診療部長	小田 英俊					○		○				
	医長	加茂 泰広	○						○				
	//	吉村 映美			○		○						
	医員	峯 彩子									○		
	非常勤	草場麻里子	○										
//	竹島 史直				□ 隔週								
眼科	副部長	和田 光代	○				○		○		○		
	非常勤	上松 聖典			○								
人工透析センター	医員	上条 将史	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	非常勤	林 和歌	○	○			○	○			○	○	
循環器内科	副院長 診療部長	木崎 嘉久	◎				□		◎		□		
	部長	中尾功二郎			□		◎		□				
	医長	落合 朋子	□				□						
	医員	吉村 聡志			□						□		
	非常勤	矢野 捷介			○						○		

科名	役職	氏名	月		火		水		木		金	
			午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
外科	胸部	病院長	碓 秀樹	○				○				□
		診療部長	佐々木伸文									○
	消化器	副院長	梶原 啓司	○				◎				
		手術部長	草場 隆史			○						
		部長	原 亮介	○								
		医員	大石 海道							○		
		//	大坪 一浩									○
		名誉顧問	國崎 忠臣	□				□				
非常勤	菅村 洋治			□		□						
整形外科	診療部長	宮原 健次			○				○		○ (第2,4週)	
	部長	北原 博之	○				○				○ (第1,3,5週)	
脳神経外科	副院長	阪元政三郎	○				○				○	
	診療部長	保田 宗紀	□				□				□	
心臓血管外科	副院長	柴田隆一郎			○				○			
	救急部長	谷口真一郎			□				□			
	部長	中路 俊							□			
皮膚科	部長	山口 宣久	○		○		○		○		□	
小児科	診療部長	山田 克彦	○	循環器 第1,3,5週	○	乳幼児健診 予防接種	○		アレルギー	アレルギー	○	生活習慣病 (隔週)
	部長	犬塚 幹	○	心身症	○	神経 第1週休診	○	心身症	○	神経	○	乳幼児 健診
泌尿器科	部長	徳永 亨介	○		□		○		□		○	
	非常勤	南 祐三	□				□	(前立腺)			□	
耳鼻咽喉科	部長	大里 康雄	○		○		○	○	○		○	
	非常勤	担当医	○						○			
放射線科	副院長	平尾 幸一	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	診療部長	堀上 謙作	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	部長	末吉 真	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	非常勤	山崎 拓也					放射線 治療計画	放射線 治療計画				
専門外来	認知症疾患 医療センター	センター長	井手 芳彦	○		○		○		○		□
	インター フェロン	副院長 センター長	木下 昇		○							
	ペー ス メー カー	副院長	木崎 嘉久		○ 第2,4週							
		診療部長	中尾功二郎		○ 第2,4週							
	乳 腺	病院長	碓 秀樹					○				
		診療部長	佐々木伸文		○ 第2,4週							○
	ストーマ	部長	草場 隆史			○ 第2週						
	禁煙	非常勤	菅村 洋治			○						
	ステント グラフト	部長	谷口真一郎			○						
	下肢静脈瘤		担当医							○		
	腹膜透析	医員	上条 将史							○		
	睡眠時無 呼吸外来	非常勤	近藤 英明			□ 隔週						
緩和医療	名誉顧問 非常勤	國崎 忠臣	○				○					
健康増進センター	一般健診	センター長	中尾 治彦		○		○		○	○	○	○
		健康管理部部长										
		部長	寺園 敏昭	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		部長	本多 幸	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	医員	永尾奈津美	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
健診産婦人科	特別顧問	石丸 忠之	○	○	○	○	○	○	○	○		
乳がん検診		担当医	○		○		○		○		○	

Dept. of Respiratory Medicine

# 呼吸器内科

肺や縦隔、胸壁の疾患の患者さんを対象に、診断および内科的な治療を行っています。

## ■診療担当医 ※2016年7月31日現在



診療部長  
**副島 佳文**  
(そえじま よしふみ)

鹿児島大学 昭和58年卒  
日本内科学会認定内科医  
日本内科学会総合内科専門医  
日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医  
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医  
がん治療認定医  
日本医師会認定産業医  
ICD(インフェクション・コントロールドクター)



副部長  
**小林 奨**  
(こばやし つとむ)

長崎大学 平成11年卒  
医学博士  
日本内科学会認定内科医  
ICD(インフェクション・コントロールドクター)

## 診療内容

診療している主な疾患は以下のとおりです。

**呼吸器感染症**(かぜ症候群、急性気管支炎、肺炎、誤嚥性肺炎、肺化膿症、肺結核、非結核性抗酸菌症、肺真菌症など)

**慢性閉塞性肺疾患**(肺気腫、慢性気管支炎など)

**アレルギー・免疫疾患**(気管支喘息、好酸球関連肺疾患、膠原病合併肺疾患、サルコイドーシスなど)

**間質性肺疾患**(間質性肺炎「肺線維症」、過敏性肺臓炎、塵肺など)

**肺腫瘍**(原発性肺がん、転移性肺がん、肺良性腫瘍、中皮腫など)

**気管支拡張症**

**びまん性汎細気管支炎**

**慢性呼吸不全**(在宅酸素療法など)

**慢性咳嗽**

## 診療実績

副島と小林の二人で診療しています。副島は肺癌の化学療法が専門で、小林は呼吸器感染症が専門です。外来は副島が火曜日の午前、午後、水曜日の午前診療を行い、小林が木曜日に診療を行っています。

入院患者さんの疾患構成は、2015年4月1日から2016年3月31日のDPCデータによると肺の悪性腫瘍152件、肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎82件、誤嚥性肺炎70件、間質性肺炎39件、抗酸菌関連疾患26件、喘息14件、気道出血10件、呼吸不全9件、敗血症7件、慢性閉塞性肺疾患7件でした。

呼吸器内科の主な検査は気管支鏡検査です。気管支鏡検査は水曜日の午後に行っています。末梢肺の小病変に対してはナビゲーションソフト、ガイドシース法を

用いて診断率を上げるようにしています。また肺門、縦隔リンパ節腫大に対しては超音波気管支鏡下リンパ節生検(EBUS-TBNA)を行っています。腫瘍の発生させる自家蛍光を観察できる気管支鏡も備えていますので肺門部早期肺癌の診断も可能です。

院内活動に関しては、副島は院内感染対策チームに属し、院内感染の監視や抗菌薬の適正使用についてミーティングを行っています。小林は呼吸療法チームに属し、人工呼吸器装着患者の回診を毎週火曜日に行っています。

院外活動としては副島は佐世保市医師会が行っている肺癌検診のダブルチェックに参加しています。

## ■主な診療実績

(入院)

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
入院延患者数	7,927名	8,088名	8,356名	7,567名	8,202名
実入院患者数	380名	397名	402名	429名	490名
退院患者数 (当科/全科)	376名 (6.70%)	389名 (7.01%)	414名 (7.11%)	430名 (6.75%)	481名 (7.22%)
平均在院日数	21.1日	21.1日	20.7日	19.1日	18.7日
気管支鏡症例数 (うちガイドシース法)	260件 —	221件 —	372件 —	127件 (62件)	146件 (79件)
(うちEBUS-TBNA)	—	—	—	(6件)	(7件)

(外来)

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
外来新患者数	312名	297名	275名	192名	174名
外来再来患者数	2,183名	2,353名	2,496名	2,671名	2,693名

## 臨床研究

長崎大学第二内科と連携し以下の臨床試験、治験を行っています。

- ・慢性閉塞性肺炎の増悪時におけるセフジトレンピボキシルの臨床効果
- ・65歳以上の高齢者肺炎(NHCAP、誤嚥性肺炎を含む)に対するシタフロキサシンの有効性

## 認定施設

日本呼吸器学会認定施設

日本呼吸器内視鏡学会認定施設

Dept.of Endocrinology

# 内分泌内科

バセドウ病や橋本病などの女性に多い甲状腺疾患の診療を行っています。

■診療担当医 ※2016年7月31日現在



非常勤  
**大財 茂**  
(おおたから しげる)

長崎大学 昭和52年卒  
医学博士  
日本内分泌学会内分泌代謝科専門医  
日本東洋医学認定専門医

非常勤  
**藤山 薫**  
(ふじやま かおる)

長崎大学 平成元年卒  
医学博士



非常勤  
**安部 恵代**  
(あべ やすよ)

長崎大学 平成6年卒  
医学博士  
日本内科学会認定内科医

## 診療内容

内分泌内科は甲状腺、副甲状腺、下垂体、副腎、骨粗しょう症を含む骨カルシウム代謝疾患を対象として診断・治療を行っています。

甲状腺疾患は頻度が多く、診療の中心になっています。バセドウ病や橋本病などの自己免疫性甲状腺疾患は

若年から中年女性に多い疾患で、妊娠・出産時は重点的管理を行います。甲状腺がんでは超音波検査や細胞診を行っています。内分泌疾患診断のため、必要に応じてCTあるいはMRI検査に加え、RI検査で甲状腺、副甲状腺、副腎シンチグラムも行っていきます。

## 診療実績

診療体制は、非常勤医師3名で対応しております。

大財は耀光リハビリテーション病院長を兼務し、毎週木曜日の午後に外来診療を当院にて行ってまいります。藤山は毎週金曜日の午前中に内分泌、午後は骨代謝疾患を中心に診療を行っています。また、安部は月に1度、第2木曜日に長崎大学病院より来院し、外来診療を行っています。

### 超音波(甲状腺)件数

(2015年度)

医師名	件数
大財 茂	219
藤山 薫	69
安部 恵代	11
<b>計</b>	<b>299</b>

Dept. of nephrology

# 腎臓内科

腎疾患の発症から末期(透析)まで幅広く治療にあたっています。

**■診療担当医** ※2016年7月31日現在

医員

**上条 将史**

(かみじょう まさひろ)

産業医科大学 平成22年卒  
日本内科学科認定内科医

非常勤

**林 和歌**

(はやし わか)

長崎大学 平成8年卒  
医学博士  
日本内科学会認定内科医  
日本内科学会認定総合内科専門医  
日本腎臓学会専門医  
日本透析医学会専門医

医長

**森 篤史**

(もり あつし)

2016年1月退職  
佐世保市総合医療センターへ異動長崎大学 平成15年  
日本内科学会認定内科医  
日本透析学会専門医  
日本腎臓学会専門医

## 診療内容

診療内容は大きく分けて次の4項目です。

**診療している主な疾患****○慢性腎臓病(CKD)、とくに生活習慣病に関連した腎臓病の診療**

慢性腎臓病のなかでも糖尿病・高血圧・脂質異常症など生活習慣病をとまなうものは、末期腎不全のみならず致死的な心血管病を発症しやすいことが知られています。蛋白尿がわかった時点で腎臓専門医により正確な診断がなされなければ、治療・管理の方針が立たず、気付かないうちに進行してしまうことがあります。

当院では原疾患の治療および食事・生活指導などを多職種共同で包括的に行っています。また、かかりつけ医との連携も積極的に勧めています。

多くの慢性疾患と同じく腎臓病は末期に至るまで症状がでません。健康診断の血液検査や尿検査で異常が出て、慢性腎臓病を指摘された時は、自覚症状がなくても早めに受診することが大切です

**○腎炎、ネフローゼ症候群、他の全身病に関連した腎臓病の診療**

慢性糸球体腎炎(血尿と軽度～中軽度の蛋白尿を伴い、ゆっくり腎不全になる病気)

ネフローゼ症候群(多量の蛋白尿とむくみを伴う病気)急速進行性糸球体腎炎(数週～数か月で急速に腎不全に進行する病気)などは可能な限り腎生検による診断と治療方針の決定を行います。

治療はガイドラインを参照しながら行います。適応があればステロイド治療を行い、重症あるいは難治性の場合には免疫抑制剤やアフェレーシスを追加します。

**○慢性腎不全の診断、治療**

保存期の慢性腎不全では、食事療法、血圧コントロール、生活指導を行います。

腎機能が低下するのを防ぎ透析導入までの期間を延長すること、心血管合併症の発症を予防することを目標に治療・管理を行います。もし、腎機能が著しく低下している場合は、透析療法を導入していくための準備を行います。できるだけ負担の少ない導入を行い、円滑に維持透析に移行できるよう努めています。導入後通院や福祉施設が必要な方は、導入前より専門スタッフにご相談ください。また、腎移植が可能な場合は他の医療機関に紹介させていただきます。

## 診療実績

経皮的腎生検……………10例

## 診療体制

- ・新患 (月)PM……………上条 (金)AM……………林
- ・再診 (木)PM……………上条 (金)AM・PM……………林

## 認定施設

日本透析医学会認定施設

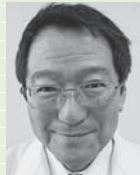
日本腎臓学会研修施設



Dept. of Neurology

# 神経内科

パーキンソン病や多発性硬化症など神経難病の専門的診断・治療を実施しています。

**診療担当医** ※2016年7月31日現在副院長・診療部長  
**竹尾 剛**  
(たけお こう)長崎大学 昭和59年卒  
医学博士  
日本神経学会認定専門医・指導医  
日本内科学会認定内科医  
日本医師会認定産業医非常勤  
**中村 龍文**  
(なかむら たつふみ)

2014年6月就勤

長崎大学 昭和53年卒  
長崎国際大学 人間社会学部 社会福祉学科 教授  
日本内科学会認定医  
日本神経学会専門医・指導医

## 診療内容

頭痛、めまい、手足のしびれ・震え・脱力、歩行障害、意識障害などの診断と治療が専門です。

問診は特に重要で、症状の変化から病気の種類を推定します。発症してからピークに達するまでの時間により、病気の種類が予測できます。脳梗塞などの血管障害ならば数分以内に症状が完成することが多く、脊髄小脳変性症やパーキンソン病などの変性疾患では数年以上かけて徐々に悪化することが多いといったように、病気の種類によって、臨床経過が異なり、診断の上で、大きなヒントとなります。

次に、神経学的な診察を行い、病気の責任病巣の

場所を推定します。脳神経領域や運動系・感覚系、深部腱反射・病的反射などを系統的に診察し、どこに病変があるのかを絞り込みます。

このようにして、病気の種類と場所がわかれば、ほとんどの疾患を診断することができます。

上記で得られたベッドサイドの診断を裏付けるために、MRI・CTなどの画像診断や、神経伝導検査・筋電図・脳波などの生理検査、あるいは筋生検・神経生検といった病理検査などの、必要な検査を行って、確定診断に導き、治療に繋げて行きます。

## 診療実績

中村の外来診療は、新患・再来ともに、第1・3木曜日の午前中で、残りの月・火および金曜日の午前中は竹尾の再来、毎週水曜日の午前中は、竹尾の新患外来となっています。

常勤医は1名のため、オンコール体制は採用していませんが、緊急時には連絡可能な体制を採っています。

新患紹介の予約は連携センターで対応しています。

神経内科の特徴は、緊急を要する疾患が比較的小さいのに対し、難病や希少疾患が多いといった点が挙げられます。このため、一般内科に比べると、一人ひとりの診察に要する時間が長く、紹介していただいてから、実際に診察に至るまでのタイム・ラグが長いといったご意見

も開業医の先生方から伺いますが、上記のような特徴をご理解いただき、予約診療にご協力いただきたいと思います。

また、難病の特性上、様々な身体機能障害を有する症例が多く、同じく白十字会に所属する耀光リハビリテーション病院と提携して、専門的な理学療法・作業療法のみならず、嚥下・言語障害や高次脳機能障害に対するリハビリテーションをシームレスに行うことを心がけています。

2011年には、日本神経学会より準教育施設に認定され、研修医をはじめとした若手ドクターの教育にも、携わっていきたく考えています。

## ■主な診療実績(入院患者)

・脳血管障害	8名
・神経変性疾患	
パーキンソン病	25名
多系統萎縮症	24名
筋萎縮性側索硬化症	7名
不随意運動疾患	3名
進行性核上性麻痺	2名
大脳皮質基底核変性症	1名
・認知症性疾患	
レビー小体型認知症	4名
アルツハイマー型認知症	2名
その他	2名
・てんかん	10名
・内科疾患・代謝性疾患に伴う神経障害	9名
・自己免疫性中枢神経疾患(MS、NMO、脊髄炎など)	7名
・神経感染症(脳炎、髄膜炎HAMなど)	6名
・末梢神経疾患(GBS、CIDPなど)	5名
・めまい	3名
・頭痛	1名
・腫瘍	1名
・その他	
感染症(肺炎、尿路感染症など)	21名
悪性腫瘍	8名
整形外科的疾患	7名
精神疾患	2名
その他	8名

## ■臨床検査実施件数

脳MRI・MRA	122件
脊椎(頸椎・胸椎・腰椎)MRI	56件
神経伝導検査	73件
脳波	25件
脳CT	24件
脳血流SPECT	20件
MIBG心筋シンチ	14件
針筋電図	11件
筋生検	3件
脳血流(ECD、IMP)	3件

## 認定施設

日本神経学会認定准教育施設

Dept. of Arthritis and Lupus Center

# リウマチ・膠原病センター

関連診療科と連携して全身的な診断・治療を実施しています。

## ■診療担当医 ※2016年7月31日現在



常務理事  
臨床研修・研究統括部長  
**植木 幸孝**  
(うえき ゆきたか)

長崎大学 昭和56年卒  
医学博士  
長崎大学臨床教授  
日本内科学会認定内科医  
日本内科学会認定総合内科専門医  
日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員  
日本透析医学会専門医・指導医  
日本アフェリシス学会認定専門医  
九州リウマチ学会評議員



センター長  
**寺田 馨**  
(てらだ かおる)

長崎大学 昭和60年卒  
医学博士  
長崎大学臨床教授  
日本内科学会認定内科医  
日本リウマチ学会専門医



部長  
**荒牧 俊幸**  
(あらまき としゆき)

長崎大学 平成13年卒  
医学博士  
日本内科学会認定内科医  
日本リウマチ学会専門医  
日本リウマチ学会登録ソングラファー



医員  
**辻 創介**  
(つじ そうすけ)

長崎大学 平成24年卒



顧問  
**江口 勝美**  
(えぐち かつみ)

長崎大学 昭和45年卒  
医学博士  
日本内科学会認定内科医  
日本リウマチ学会専門医・指導医・登録医



非常勤  
**一瀬 邦弘**  
(いちのせ くにひろ)

長崎大学 平成12年卒  
医学博士  
日本内科学会認定内科医  
日本内科学会認定総合内科専門医  
日本リウマチ学会専門医  
日本腎臓学会専門医  
日本医師会認定産業医



非常勤  
**岩本 直樹**  
(いわもと なおき)

長崎大学 平成14年卒  
医学博士  
日本内科学会認定内科医  
日本リウマチ学会専門医



非常勤  
**梅田 雅孝**  
(うめだ まさたか)

長崎大学 平成22年卒  
日本内科学会認定内科医  
日本リウマチ学会専門医  
日本リウマチ学会登録ソングラファー

## 診療内容

関節リウマチ、膠原病、および膠原病類縁疾患の患者さんを主な対象に、診断および内科的治療、さらにはよりよい治療法の開発に向けた研究活動を行っています。

診療している主な疾患は右記のとおりです。

＜リウマチ疾患＞関節リウマチ

＜膠原病＞全身性エリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎、多発性筋炎、血管炎症候群など

＜膠原病類縁疾患＞ベーチェット病、シェーグレン症候群、リウマチ性多発筋痛症など

## 診療実績

関節リウマチをはじめとする膠原病は、日本リウマチ学会・アメリカリウマチ学会・ヨーロッパリウマチ学会の分類基準により行うのが標準となっていますが、鑑別すべき疾患が多く注意深く鑑別することが必要で、最初に診断ができなくても、経過観察を継続することで診断に至ることがあります。一般に経過が長く、増悪・寛解を繰り返すので、現時点だけではなく長期的な視野に立って治療を考える必要があり、患者さん自身の意見を尊重する必要があります。すなわち、予後と治療法の選択、治療の費用、副作用の情報を適切に伝え、患者さん自身の意向を勘案しながら治療法を選択する必要があります。また、疾患あるいは治療薬に関係する合併症も多くみられます。

従って、リウマチ・膠原病センターでは、以下の点を診療科の目標としています。

- ① 診断および治療の適用・開始を的確に行う。
  - ② 治療効果の判定、経過観察を適切に行う。
  - ③ 疾患あるいは治療薬に関係する合併症の出現に注意し、出現時は、速やかに適切に対処する。
  - ④ スタッフ(看護師・理学療法士・薬剤師・管理栄養士・ソーシャルワーカー・事務職など)と協力し、日常生活上の注意、物理・作業療法、社会福祉的な支援(特定疾患・身体障害者・介護保険の申請など)を行う。
- 特に、関節リウマチは近年、画期的な治療である生物学的製剤の登場で治療法が大きく変わっています。しかし、基礎疾患のため使用できない場合、生物学的製

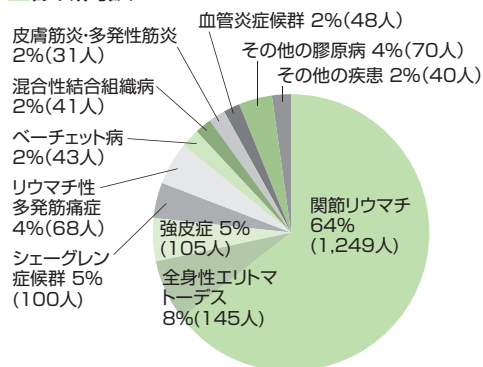
剤を使用しても十分な効果が出ない場合、生物学的製剤の副作用のため使用継続が困難である場合、生物学的製剤が高額のため経済的に使用できない場合などがあり、本当の意味で画期的とはいええない状態です。従って、生物学的製剤およびそれ以外の治療法の適応方法・開発が期待されます。今後もリウマチ膠原病疾患を中心に、佐世保市・県北の医療に貢献していきたいと思いをします。

## ■ 診断内訳

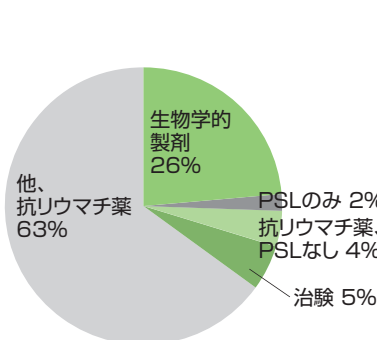
当リウマチ・膠原病センターはおよそ2000名のリウマチ・膠原病の患者さんを専門外来で診療しています。新患は年間約600名で、佐世保市などの長崎県北部のみならず、島原など県南部からも紹介を受けています。最近、関節リウマチの診断・治療が急速に進み、早期リウマチの患者さんの紹介が急増しています。さらに2003年から導入された生物学的製剤により、リウマチの治療は痛みを抑える時代から、その進行を抑える時代、そして進行を止め、場合によっては関節破壊を修復するような激動の時代に突入しています。

当院では、全リウマチ患者さんの約22%に生物学的製剤を使用しています。遠方からたくさんの患者さんが当院を受診されているため、地域の先生方と県北リウマチネットワークを作り、リウマチの地域連携をすすめています。

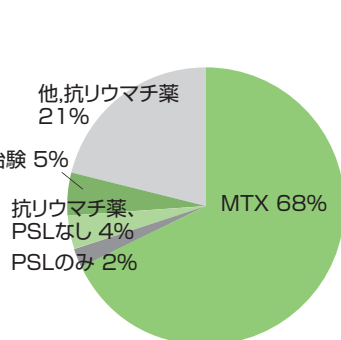
■ 診断内訳 2016年3月統計(N=1,940)



■ 生物学的製剤使用状況 (関節リウマチ患者=1,249人)



■ MTX使用状況 (関節リウマチ患者=1,249人)



## 認定施設

日本リウマチ学会認定教育施設

Dept. of Diabetes Center

# 糖尿病センター

糖尿病患者の自己管理を専門チームが支援しています。

**■診療担当医** ※2016年7月31日現在センター長  
**松本 一成**  
(まつもと かずなり)長崎大学 昭和62年卒  
医学博士  
長崎大学臨床教授  
日本糖尿病学会専門医・指導医  
日本内科学会認定内科医  
臨床コーチング研究会認定コーチ医長  
**森 芙美**  
(もり ふみ)長崎大学 平成17年卒  
日本内科学会認定内科医  
日本糖尿病学会専門医医員  
**重野 里代子**  
(しげの りよこ)

2015年6月就勤

久留米大学 平成23年卒  
日本内科学会認定内科医医員  
**徳満 純一**  
(とくみつ じゅんいち)

2016年4月就勤

長崎大学 平成25年卒

医員  
**二里 哲朗**  
(にり てつろう)2016年3月退職  
長崎大学病院へ異動

久留米大学 平成24年卒

## 診療内容

かかりつけ医から紹介された患者さんや、健康診断で糖尿病が疑われた患者さん(メタボリックシンドロームも含む)、あるいは糖尿病そのものや合併症がコントロールできていない患者さんなどを対象にしています。糖尿病の診断、食事療法・運動療法を実行するための支援、糖尿病薬やインスリンによる治療、合併症の管理など、糖尿病専門機関でしかできないような診療を行っています。一方でかかりつけ医と地域連携システムを構築し、地域連携バス「佐世保ブルーサークル」を運用しています。通常の治療はかかりつけ医で行い、専門的な教育や検査は専門施設である当院で行うことになり、医療資

源を最大限に生かす有用な方法です。

糖尿病の理想的な治療は、できるだけ正常に近くなるように血糖値をコントロールして合併症を防止することです。そのためには、患者さん自身による「自己管理」が大切です。当院では、患者さんの自己管理を支援するために専門チームを結成し、「教育入院(2週間)」、「検査入院(1泊2日)」、「腎症教育入院(4泊5日)」、「栄養看護外来」の4つのコースを運営しています。なかでも教育入院の成績は大変良好であり、退院後多くの患者さんがHbA1c (NGSP値) 7%未満を達成されています。

## 診療実績

糖尿病センターでは毎月およそ1400名の糖尿病患者さんを専門外来にて診療し、年間およそ130名の糖尿病教育入院に携わっています。新患は年間およそ300例で、長崎県内では最も充実した糖尿病学会認

定教育施設です。常勤医は松本医師・森芙美医師・二里哲朗医師・重野里代子医師の4名です。看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師など専門性の高いメディカルスタッフも大いに活躍してお

り、連携のとれたチーム医療が実践されています。例えば、看護師は糖尿病性壊疽を未然に予防する「フットケア」の実践を行っています。また、管理栄養士も毎日栄養指導を行っています。医師、看護師、管理栄養士による「透析予防指導」も開始しました。診療のみならず学術的な分野でも毎年、学会や論文など多くの糖尿病診療に関する重要な知見を継続して発表しています。その分野は多岐にわたっており、糖尿病療養指導、腎症、動脈硬化、コーチングなど幅広い発表内容になっています。

### ■糖尿病教室

月・二里／栄養士  
 火・栄養士 理学療法士  
 水・松本／栄養士  
 木・栄養士 看護師  
 金・重野／栄養士 臨床検査技師

「共感的に患者さんの言葉を傾聴する」、「わかるまで繰り返し情報提供を続ける」、「どうなりたいのか具体的に質問する」、当たり前のことと思われがちですが、実際にできている施設は少ないと思います。患者さんの自主性を支援することをエンパワーメントといいますが、このことを実践するために、糖尿病の基礎知識や最新の情報を整理して患者さんに理解しやすい資料を作成しています。また、医療者と患者さんの双方向性のコミュニケーションを促進するためのコーチングにも磨きをかけています。

### ■主な診療実績

2015年度新患数 ..... 366名  
 月平均受診者数 ..... 920名  
 平均HbA1c ..... 7.64%

### ■クリニカルインディケータ（薬物療法患者対象）

		第1四半期 (4・5・6月)	第2四半期 (7・8・9月)	第3四半期 (10・11・12月)	第4四半期 (1・2・3月)	年 間
2015年度		33.33%	35.52%	35.70%	28.94%	33.13%
	HbA1c7.0未満の患者数	303	320	317	255	495
	薬物治療患者数	909	901	888	881	1,494

\*QI Project 2014

## 認定施設

日本糖尿病学会教育施設

Dept. of Gastroenterological Endoscopy

# 消化器内視鏡センター

がんの早期発見・早期治療に威力を発揮しています。

## 診療担当医 ※2016年7月31日現在



副院長・センター長  
**木下 昇**  
(きのした のぼる)

長崎大学 昭和 57年卒  
医学博士  
日本内科学会認定医・指導医  
日本消化器病学会専門医・指導医  
日本消化器内視鏡学会専門医  
日本消化器内視鏡学会九州支部評議員  
日本感染症学会ICD(インフェクションコントロールドクター)



診療部長  
**小田 英俊**  
(おだ ひでとし)

長崎大学 昭和62年卒  
医学博士  
日本内科学会認定医・指導医  
日本消化器病学会専門医・指導医  
日本消化器内視鏡学会専門医



医長  
**加茂 泰広**  
(かも やすひろ)

長崎大学 平成17年卒  
医学博士  
日本内科学会認定内科医  
日本消化器病学会専門医  
日本消化器内視鏡学会専門医  
日本肝臓学会認定肝臓専門医



医長  
**吉村 映美**  
(よしむら えみ)  
2016年6月就勤

長崎大学 平成17年卒  
日本内科学会認定内科医  
日本消化器病学会専門医  
日本肝臓病学会専門医



医員  
**岩津 伸一**  
(いわつ しんいち)  
2015年6月就勤

長崎大学 平成23年卒



医員  
**峯 彩子**  
(みね あやこ)  
2016年6月就勤

福岡大学 平成23年卒



医長  
**松崎 寿久**  
(まつざき としひさ)  
2016年6月退職  
佐世保市総合医療センターへ異動

長崎大学 平成14年卒  
医学博士  
日本内科学会認定内科医  
日本消化器病学会専門医  
日本消化器内視鏡学会専門医  
日本肝臓学会認定肝臓専門医



医長  
**時村 郁子**  
(ときむら いくこ)  
2016年6月退職  
五島中央病院へ異動

山口大学 平成18年卒

## 診療内容

全機種ハイビジョン対応の上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡を用いて、消化管（食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、S状結腸、直腸）と胆嚢、胆管、膵臓に疾患をもつ患者さんのスクリーニング検査と診断および内視鏡的治療を行っています。主な内視鏡的治療は以下のとおりです。

- ・全消化管に対する内視鏡的止血術
- ・食道静脈瘤に対する結紮術
- ・早期食道がんおよび早期胃がんに対するESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）

- ・大腸ポリープ、早期大腸がんに対するESDおよびEMR（内視鏡的ポリープ切除術）
  - ・上部消化管狭窄や胆道悪性腫瘍に対する拡張術胃瘻造設術
  - ・異物除去
  - ・閉塞性黄疸に対する内視鏡的胆道ドレナージ術
  - ・内視鏡的総胆管結石除去術
- 肝臓病では、ウイルス性肝炎の診断及びインターフェロンを中心とした治療、肝細胞がんに対する超音波下、腹腔鏡下エタノール局注療法及びラジオ波焼灼療法を行っています。

## 診療実績

食道、胃、十二指腸に対する上部消化管検査は、年間5,656件（2015年度実績）実施し、うち522件に上記のような内視鏡的治療を行っています。

小腸、大腸、S状結腸、直腸に対する下部消化管検査は、年間1,488件（2015年度実績）実施し、うち約508件に上記のような内視鏡的治療を行っています。

当院は佐世保市指定二次救急輪番病院であり、年間を通して、昼夜を問わず消化管出血などの患者さん

が搬送されてきます。当科では、チーム内でオンコール体制をとり、緊急の症例にも対応しています。

近年の内視鏡による診断・治療手技の飛躍的な進歩により、胃がんや大腸がんは、早期がんの段階で発見できれば、治療することによりほぼ100%完治できるようになっています。異常を自覚したり、健康診断で精密検査を進められた方は、躊躇されることなくできるだけ早いうちに当科を受診されることをおすすめします。

### ■主な診療実績

上部消化管内視鏡検査	5,656件
下部消化管内視鏡検査	1,475件
上部内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	71件
下部内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	70件
上部内視鏡的粘膜切除術(EMR)	2件
下部内視鏡的粘膜切除術(EMR)	396件
内視鏡的止血術	171件
内視鏡的胃瘻造設術(PEG)	15件
内視鏡的拡張術	41件
内視鏡的静脈瘤結紮術(EVL)	17件

カプセル型小腸内視鏡検査	13件
内視鏡的胆道治療(ERBD/EST)	232件
超音波内視鏡検査(EUS)	151件
内視鏡的異物除去術	15件
肝生検	53件
エタノール局注療法(PEIT)	14件
ラジオ波焼灼療法(RFA)	
インターフェロン治療導入	4件
インターフェロンフリー治療導入	42件
B型肝炎核酸アナログ導入	9件

## 認定施設

- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本消化器病学会認定施設



Dept. of artificial dialysis Center

# 人工透析センター

血液浄化療法を導入し、免疫性疾患の治療にも対応しています。

## ■診療担当医 ※2016年7月31日現在



常務理事  
臨床研修・研究統括部長  
**植木 幸孝**  
(うえき ゆきたか)

長崎大学 昭和56年卒  
医学博士  
長崎大学臨床教授  
日本内科学会認定内科医  
日本内科学会認定総合内科専門医  
日本リウマチ学会認定医・専門医・指導医・評議員  
日本透析医学会専門医・指導医  
日本アフェレンス学会認定専門医  
九州リウマチ学会評議員



医員  
**上条 将史**  
(かみじょう まさふみ)

産業医科大学 平成22年卒  
日本内科学科認定内科医



非常勤  
**林 和歌**  
(はやし わか)

長崎大学 平成8年卒  
医学博士  
日本内科学会認定内科医  
日本内科学会認定総合内科専門医  
日本腎臓学会腎臓専門医  
日本透析医学会専門医



医長  
**森 篤史**  
(もり あつし)

2016年1月退職  
佐世保市総合医療センターへ異動

長崎大学 平成15年卒  
日本内科学会認定内科医  
日本透析学会専門医  
日本腎臓学会専門医

## 診療内容

腎臓疾患や自己免疫疾患などの患者さんを主な対象に、専門的な診断および血液透析や血漿交換など、血液浄化装置を用いて各種専門治療を行っています。診療している主な疾患は次のとおりです。

### 〈腎臓疾患〉

ネフローゼ症候群、急性糸球体腎炎、慢性糸球体腎炎、腎性高血圧、糖尿病性腎症、

膠原病に伴う腎障害、急性腎障害、慢性腎臓病など

### 〈自己免疫疾患〉

関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、血管炎、潰瘍性大腸炎など

## 診療実績

常時80人以上の維持透析を行い、また、透析導入やあらゆる急性血液浄化療法にも対応しています。

2014年度に全国で維持透析導入された患者数は36,000人を超え、また維持透析患者数も320,000人を超えました。また、導入時平均年齢は男性が68.1歳、女

性は70.9歳、全体の平均年齢は69.0歳、当院においても男性68.66歳、女性78.25歳、全体では73.46歳と導入患者さんの高齢化が進んでいます。また、20年以上透析患者数は全国で24,830人と、全透析患者の中の8.0%を占め、長期透析患者さんの増加傾向が明らかと

なっています。

透析患者さんの高齢化、維持透析の長期化に伴い、アミロイドーシスや透析性骨症といった透析患者さん特有の合併症に加え、脳血管障害、心血管障害、悪性腫瘍などの多岐にわたる合併症を有する患者さんが増加し、それらの診断、治療も重要な位置を占めるようになりまし。人工透析センターは、さまざまな科を有する総合病院で行う透析の利点を生かし、専門の他科と連

携して、急性期治療が必要な合併症を持つ透析患者さんを受け入れています。脳血管障害や心血管障害、術後などでCHDFを施行した回数は2014年度51回、2015年度89回、膠原病や肝疾患、消化器疾患を対象とした血漿交換やLCAP等の特殊血液浄化療法の施行もそれぞれ91回、108回と急性期の血液浄化療法も積極的に行っています。

### ■主な診療実績

- ・維持透析患者数 ..... 84人  
2016年3月31日現在
- ・維持透析導入患者  
(急性腎不全、術後一時的導入を除く)  
2014年度 ..... 21人  
2015年度 ..... 24人

- ・特殊血液浄化療法施行回数  
(2014年4月1日～2016年3月31日)延べ回数

	2014年度	2015年度
LCAP	45	42
GCAP	0	10
血漿交換 他	32	43
エンドトキシン吸着	14	13
CHDF	51	89

### 認定施設

日本透析医学会認定施設

Dept. of Cardiology

# 循環器内科

急性心筋梗塞をはじめ循環器疾患にオンコール体制で365日・24時間対応しています。

## ■診療担当医 ※2016年7月31日現在



副院長・診療部長  
入院支援センター長

**木崎 嘉久**  
(きざき よしひさ)

長崎大学 昭和59年卒  
日本内科学会認定内科医・認定総合内科医・指導医  
日本循環器学会認定専門医  
日本心血管インターベンション治療学会専門医・指導医  
同九州地方会運営委員  
日本高血圧学会専門医・指導医  
日本医師会認定産業医  
長崎県急性心筋梗塞検討委員会 委員



部長

**中尾 功二郎**  
(なかお こうじろう)

長崎大学 平成2年卒  
医学博士  
日本内科学会認定内科医・総合内科専門医  
日本循環器学会認定専門医  
日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医



医長

**落合 朋子**  
(おちあい ともこ)

長崎大学 平成20年卒  
日本内科学会認定内科医



医員

**吉村 聡志**  
(よしむら さとし)

2016年4月就勤

長崎大学 平成24年卒  
日本内科学会認定内科医  
日本救急学会ICLSインストラクター  
ACLS-EP-JATEC-FCCSプロバイダー  
日本化学療法学会抗菌化学療法認定医



非常勤

**矢野 捷介**  
(やの かつすけ)

長崎大学 昭和41年卒  
医学博士  
長崎国際大学 健康管理学部客員教授  
長崎大学医学部名誉教授  
日本老年医学会認定老年病専門医・指導医  
日本循環器学会認定専門医・日本内科学会認定内科医  
介護老人保健施設長寿苑顧問



医員

**本田 智大**  
(ほんだ ともひろ)

2016年6月退職  
大村市民病院へ異動

佐賀大学 平成22年卒

## 診療内容

狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患、高血圧症、不整脈など、心臓疾患や循環器疾患を対象に、心臓超音波検査、心臓カテーテル検査（緊急対応可）や64列MDCT（マルチスライスCT）を使用して、冠動脈、大血管などの評価、心臓核医学検査など専門的な診断および治療を行っています。急性心筋梗塞には常時オンコール体制で365日・24時間対応しています。診療している主な疾患は次のとおりです。

- 〈虚血性心疾患〉急性心筋梗塞、狭心症 など
- 〈高血圧症〉本態性高血圧症、二次性高血圧症 など
- 〈不整脈〉頻脈性不整脈、徐脈性不整脈、心房細動 など
- 〈心臓弁膜疾患〉僧帽弁膜症、大動脈弁膜症や先天性心疾患 など
- 〈心臓心筋疾患〉心膜炎、心筋炎、心筋症 など
- 〈血管疾患〉大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症 など

## 診療実績

外来診療は平日午前中に新患、再来各1名で行い、専門外来としてペースメーカー外来を第2および第4月曜午後に実施しています。平日午後には血管イン

ターベンション加療(PCI)やカテーテルアブレーション加療(ABL)などの各種検査と治療を中心に診療しています。新患紹介や冠動脈CTA検査などの予約は連携せ

ンターで対応しており、また、メディカルネット99からの直接予約も可能となっています。

救急受入れは、平日日勤帯は常時対応しています。時間外は内科系当直の対応となりますが、急性心筋梗塞や重症心不全症例など緊急治療を要する場合は、循環器内科当番医(オンコール)で加療しています。緊急心臓カテーテル検査も24時間常時実施可能です。

心臓リハビリテーション指導士による運動療法やPCIや末梢血管形成術(PTA・PTR)、不整脈加療としてペースメーカー加療、ABL、心臓再同期療法(CRT)と難治性・致死性不整脈疾患へ植込み型除細動器(ICD)、両者を併せた両室ペーシング機能付除細動(CRT-D)治療、他に大動脈内バルーンポンプ(IABP)や経皮経管的心肺補助システム(PCPS)による補助循環システムを利用した加療を実施しています。多科連携での血管内カテーテル治療となる大動脈STENT.graft留置(EVAR・TEVAR)、頸動脈狭窄へのSTENT加療(CAS)なども施設基準制定を受けて加療を行っています。

地域医療連携の一環としてAMI・PCI地域連携パスを2006年5月より稼働、2016年3月までに地域医療機関92施設(病院15、医院・診療所77施設)との間で、延べ357症例で運用しています。

## ■主な診療実績 2015年(1/1-12/31)

心エコー図検査	3,163例
心臓カテーテル検査	352例
大動脈CT	309例
心臓CT(冠動脈CTA)	241例
心筋シンチ	155例
心血管インターベンション加療	153例
体内式ペースメーカー植込み(CRT・ICD含む)	60例
末梢血管インターベンション加療	29例
年間入院数	540名
(うち急性心筋梗塞30名)	

## ■循環器関連機器

・心エコー図装置	4台
Toshiba社製 Aplio	
GE社製 vivid i GE社製 vivid E9	
・64列 MDCT	1台
PHILIPS社製 Brilliance64	
・血管造影装置	2台
PHILIPS社製 Allura Clarity FD 20/20	
Toshiba社製 Infinix Celeve-i	
・冠動脈血管内超音波装置	1台
VOLCANO社製	
VOLCANO S5 Imaging system	
・負荷 ECG装置	
エルゴメータ1台 トレッドミル1台 CPX	
・ホルター解析装置	1台
フクダ電子 SCM-8000	
・RI装置	1台
・MRI	1.5T……1台
	3.0T……1台(心血管 MRA対応可)

## 認定施設

- ・日本循環器学会認定教育施設
- ・日本心血管インターベンション治療学会認定教育施設
- ・日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設
- ・日本高血圧学会認定研修施設
- ・両心室再同期療法・植込み型除細動器治療(CRT-D)実施認定施設
- ・胸部-腹部大動脈STENT留置(EVAR・TEVAR)
- ・心大血管疾患リハビリテーション認定(I)

## 施設対応

- ・Medtronic製MRI対応型ペースメーカー植込み患者MRI検査施設

Dept. of Surgery

# 外科

専門医による高度の医療を提供する体制を整備。患者さんのQOLを重視した縮小手術も積極的に実施しています。

## ■診療担当医 ※2016年7月31日現在



理事  
病院長  
**碓 秀樹**  
(いかり ひでき)

長崎大学 昭和58年卒  
医学博士  
日本外科学会専門医  
検診マンモグラフィ読影認定医  
日本消化器外科学会認定医  
日本がん治療認定医機構がん治療認定医  
日本医療マネジメント学会評議員



副院長・手術部長  
**梶原 啓司**  
(かじはら けいじ)

徳島大学 昭和55年卒  
医学博士  
日本外科学会専門医・指導医  
日本消化器外科学会専門医・指導医  
消化器がん外科治療認定医  
日本消化管学会胃腸科認定医



診療部長  
**佐々木 伸文**  
(ささき のぶひみ)

宮崎大学 昭和62年卒  
医学博士  
日本外科学会専門医  
日本胸部外科学会認定医  
日本消化器外科学会認定医  
日本乳癌学会認定医  
日本がん治療認定医機構がん治療認定医



部長  
**草場 隆史**  
(くさば たかふみ)

長崎大学 平成9年卒  
医学博士  
日本外科学会認定医・専門医



医員  
**原 亮介**  
(はら りょうすけ)  
2016年4月就勤

長崎大学 平成23年卒



医員  
**大石 海道**  
(おおishi かいどう)  
2016年4月就勤

宮崎大学 平成24年卒



医員  
**大坪 一浩**  
(おおつぼ かずひろ)  
2016年4月就勤

長崎大学 平成25年卒



名誉顧問  
**國崎 忠臣**  
(くにさき ただおみ)

長崎大学 昭和41年卒  
医学博士  
日本消化器内視鏡学会専門医・指導医  
日本緩和医療学会暫定指導医



非常勤  
**菅村 洋治**  
(すがむら ようじ)

新潟大学 昭和42年卒  
日本外科学会認定医  
日本消化器外科学会認定医



部長  
**重政 有**  
(しげまさ ゆう)  
2016年3月退職  
佐世保市総合医療センターへ異動

防衛医科大学 平成2年卒  
医学博士  
日本外科学会専門医・指導医  
日本消化器外科学会専門医・指導医  
日本肝胆脾外科学会高度技術指導医・評議員  
消化器がん外科治療認定医  
日本がん治療認定医機構がん治療認定医



医員  
**鍬尾 智幸**  
(くわお ともゆき)  
2016年3月退職  
長崎川棚医療センターへ異動

長崎大学 平成22年卒



医員  
**内田 史武**  
(うちだ ふみたけ)  
2016年3月退職  
諫早総合病院へ異動

高知大学 平成23年卒

## 診療内容

現在7名のスタッフで、あらゆる分野の専門医を取得し、認定施設や若い臨床医の研修・育成の場としての基準を満たしています。

診療面では、専門医による高度の医療を提供するため、肝胆膵外科、消化器・一般外科、乳腺・内分泌外科、呼吸器外科の4つのユニットに分け、それぞれ中心となる担当医を決めて、高度で安全な医療を目指しています。

治療対象の多くはがんなどの悪性疾患で、早期の症例に対しては、QOLを重視した機能温存・縮小手術を、進行がんには手術に化学療法、温熱療法、放射線療法などを組み合わせた集学的治療を行っています。進行がんに対してはdown stagingによる予後の改善を目的とした術前化学療法(NAC)を行う症例が増加しています。

近年、低侵襲手術に重点が置かれるようになり、内視鏡手術や鏡視下手術が増加の傾向にあります。当科における鏡視下手術は1991年という早期に導入し、現在は胆石症などの良性疾患に対しては積極的に腹腔鏡下手術を行い、大腸がんに対しては症例を選択しながら、腹腔鏡下ないし腹腔鏡補助下手術を行っていま

す。胸腔鏡下手術は、自然気胸、肺がんや縦隔腫瘍などに対して年間約30例を行っています。自然気胸の患者さんに対しては、術後再発率0%を目標に治療を行っており、それに近い実績をあげています。

年々増加する乳がんに対しては、整容性を重視した乳房温存手術を目指しています。また全摘が必要な症例においては、症例を選んで一次的乳房再建術を行っています。

専門外来として、乳腺外来、ストーマ外来、禁煙外来を午後の時間帯に開設して、患者さんのニーズにこたえています。

研究面では、赤外観察カメラシステム(Photodynamic Eye, PDE)を導入し、乳がん・胃がん・大腸がんを中心にICGの蛍光特性を利用したnavigation surgeryを開始しています。また全国学会をはじめ、各種学会において、研究報告や症例報告を別記のように発表しました。

毎週月曜日に病理、放射線科と合同で抄読会を行い、毎週月・木曜日に術前検討会を、毎週木曜日に消化器内科医を交えて術後検討会を行っています。また毎月1回手術標本の病理検討会を病理医指導の下で行っています。

## 診療実績

当院は救急告示病院で、佐世保市の二次輪番救急指定病院でもあり、緊急患者に対しては24時間対応

で行っており、2015年度は2,454台の救急車を收容し、90例の外科緊急手術を施行しました。

### ■主な診療実績

－手術症例数－

手術総数 586 (全身麻酔460、腰椎麻酔46、局所麻酔80)					
(1) 乳腺腫瘍 ・乳がん ・その他(葉状腫瘍等)	104例 95例 9例	(6) 胃十二指腸潰瘍(穿孔) (7) 小腸疾患 ・イレウス ・腫瘍	3例 26例 20例 1例	(11) 胆石症 ・腹腔鏡下 (12) 胆嚢腫瘍 (14) 肝腫瘍(肝切除) ・原発性 ・転移性 (15) 脾腫瘍	55例 49例 2例 7例 3例 4例 2例
(2) 甲状腺腫瘍 ・甲状腺癌 ・その他	5例 2例 3例	(8) 大腸腫瘍 ・結腸癌 ・直腸がん (内 腹腔鏡下手術 14例)	77例 54例 23例		
(3) 呼吸器 (内 胸腔鏡下手術 28例) ① 肺がん ③ 縦隔腫瘍 ④ 気胸 ⑤ その他	37例 19例 2例 11例 5例	(9) 大腸良性疾患(穿孔) (10) ヘルニア ・鼠径 ・大腿 ・閉鎖孔 ・腹壁 ・臍 (内 腹腔鏡下手術 13例)	13例 68例 52例 2例 2例 8例 4例		
(4) 食道がん (5) 胃腫瘍 ・胃がん	4例 43例 35例				
(内) 緊急手術90(全身麻酔70、腰椎麻酔8、局所麻酔12)					
・急性虫垂炎 ・腸閉塞 ・ヘルニア嵌頓	20例 13例 6例	・気胸 ・大腸がん ・上部消化管穿孔	6例 3例 4例	・小腸穿孔 ・下部消化管穿孔 ・胆石、胆のう炎 ・その他	4例 12例 5例 17例



## 認定施設

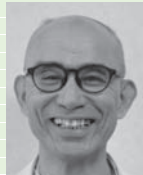
- ・日本外科学会専門医制度修練施設
- ・日本呼吸器外科学会専門医制度関連施設
- ・日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
- ・日本胸部外科学会専門医制度関連施設
- ・日本ハイパーサーミア学会認定施設
- ・日本消化器外科学会専門医修練施設
- ・日本大腸肛門病学会専門医修練施設
- ・日本救急医学会救急科専門医指定施設
- ・日本乳癌学会関連施設
- ・日本がん治療認定研修施設

Dept.of Orthopaedic surgery

# 整形外科

運動器のけがや病気を治療しています。特に関節鏡を用いた手術を沢山行っています。

■診療担当医 ※2016年7月31日現在



診療部長  
**宮原 健次**  
(みやはら けんじ)

長崎大学 昭和58年卒  
日本整形外科学会 整形外科専門医  
日本整形外科学会 リウマチ医  
日本整形外科学会 脊椎脊髄病医  
身体障害者法 長崎県指定医



部長  
**北原 博之**  
(きたはら ひろゆき)

福岡大学 平成2年卒  
日本整形外科学会 整形外科専門医  
日本整形外科学会 スポーツ専門医  
日本体育協会 スポーツ専門医  
身体障害者法 長崎県指定医

## 診療内容

2014年6月より10年ぶりに整形外科が復活して、2年目が過ぎようとしています。

整形外科医は今のところ2名のままですが、外来業務や入院手術業務もだいぶ軌道に乗ってきました。手術症例も増えて年間400例を超えるようになりました。

とくに関節鏡視下の手術が多く、肩関節においては佐世保市有数の病院になっています。また膝の関節鏡視下の手術や骨切り術、膝や股関節の人工関節置換術、靭帯の再建術や腱の手術なども行っています。さらに当院に多い糖尿病やリウマチの患者さんの骨折など

の外傷や関節や腱の手術なども増えてきました。近隣の患者さんの骨折などの外傷の手術も増えてきました。

手術内容の詳細につきましては、下記をご参照ください。

また、当院も2016年3月からは日本整形外科認定施設に認定されました。

これからも、運動器のケガや病気に対して、地域のお役に立てますように一生懸命頑張る所存ですので、よろしくお願いいたします。

## 診療実績

### 全手術症例：423例

(2015年4月～2016年3月までの1年間)

#### 1) 肩関節：76例

- ① 関節鏡視下手術 ..... 57例
  - 腱板修復術 ..... 47例  
(パッチ形成2例を含む)
  - 関節唇修復 ..... 4例
  - 授動術 ..... 3例
  - 脱臼に対する制動術 ..... 3例
- ② 人工骨頭挿入術 ..... 3例
- ③ 観血的滑膜切除 ..... 4例
- ④ 上腕骨近位骨折骨接合 ..... 12例

#### 2) 膝関節：37例

- ① 関節鏡視下手術 ..... 34例
  - 半月板切除 ..... 18例
  - 半月板縫合 ..... 6例
  - 滑膜切除 ..... 6例
  - タナ切除 ..... 1例
  - 遊離体摘出 ..... 0例
  - ACL再建術 ..... 3例
- ② 骨切り術 ..... 2例  
(内骨軟骨移植追加2例)
- ③ 膝蓋骨制動術 ..... 1例



**3)人工関節：22例**

①膝関節全置換	14例
	(内リウマチ2例)
②股関節全置換	8例
	(内リウマチ1例)

**4)大腿骨頸部骨折：85例**

転子部骨折:骨接合	46例
内側骨折:骨接合	13例
人工骨頭挿入	26例

**5)その他の骨折：90例**

**6)リウマチ関連：2例**

手の手術	0例
足の手術	2例

**7)切断術：7例**

大腿切断	1例
下腿切断	4例
足趾切断	0例
手指切断	2例

**8)腱や靭帯など：14例**

アキレス腱断裂	3例
足関節靭帯断裂	1例
尺骨神経移行	2例
手根管解放	3例
ばね指	5例

**9)その他(感染や抜釘など)：90例**

合計423手術

**認定施設**

2016年3月から日本整形外科認定施設に認定されました。

Dept. of neurosurgery

# 脳神経外科

脳血管障害や頭部外傷に最先端の診断・治療を実施しています。



副院長・診療部長  
**阪元 政三郎**  
(さかもと せいざぶろう)

福岡大学 昭和60年卒  
医学博士  
日本脳神経外科学会専門医  
日本脳卒中学会専門医  
長崎クモ膜下出血研究会世話人  
長崎県北脳卒中研究会世話人  
長崎県北神経懇話会世話人  
福岡脳卒中連携セミナー世話人  
福岡脳卒中救命セミナー世話人  
福岡大学臨床教授



脳神経外科 兼  
救急部副部長  
**保田 宗紀**  
(やすだ むねとし)

2016年4月就勤

福岡大学 平成9年卒  
日本脳神経外科学会専門医  
日本脳卒中学会 専門医  
日本脳卒中学会認定 脳卒中専門医  
日本救急医学会 救急専門医  
日本脳神経血管内治療学会 認定専門医  
日本神経内視鏡学会 技術認定医



医員  
**藤原 史明**  
(ふじはら ふみあき)

宮崎大学 平成23年卒



医員  
**堀尾 欣伸**  
(ほりお よしのぶ)

2016年4月就勤

熊本大学 平成24年卒



医員  
**高木 友博**  
(たかき ともひろ)

2015年10月就勤

昭和大学 平成25年卒



医長  
**竹本 光一郎**  
(たけもと こういちろう)

2016年3月退職  
福岡大学病院へ異動

福岡大学 平成15年卒  
日本脳神経外科学会専門医  
日本脳卒中学会専門医  
日本脳神経血管内治療指導医



医員  
**榎本 年孝**  
(えのもと としゆき)

2016年3月退職  
福岡山王病院へ異動

福岡大学 平成22年卒

## 診療内容

脳や脊髄および末梢の神経にいたるまで、あらゆる神経系の疾患をもつ患者さんを対象に、専門性の高い診断および手術治療ならびに血管内治療を24時間体制で行っています。診療している主な疾患は以下のとおりです。

〈脳血管障害〉くも膜下出血(脳動脈瘤破裂)、未破裂脳動脈瘤、脳出血、脳動静脈奇形、脳梗塞、モヤモヤ病、頸動脈狭窄症など

〈脳腫瘍〉神経膠腫、髄膜腫、聴神経腫瘍、転移性脳腫瘍、下垂体腫瘍など

〈頭頸部外科疾患〉頭部外傷、顔面外傷など

〈脊椎・脊髄疾患〉変形性脊椎症、椎間板ヘルニア、脊髄腫瘍、脊髄動脈奇形など

〈機能的疾患〉顔面痙攣、三叉神経痛など

## 診療実績

1995年大和町へ移転時より脳神経外科が新設され、特に救急での脳血管障害、外傷、さらに脳腫瘍・脊椎疾患等を治療しています。2009年3月には県北部の地域脳卒中センターに認定され、くも膜下出血、脳出血、脳梗塞等の脳卒中患者を24時間体制で受け入れ、CT、MRI、超音波検査を即時に行うことで、早期診断・治療を開始できています。最近では脳梗塞患者が増加し、超急性期血栓溶解療法（t-PA）のみならず血管内治療専門医による再開通療法（血行再建術）も増加傾向にあります。

リハビリはPT・OT・STが揃っており、365日休みなしの体制でリハビリを行い、更にロボットスーツHALを用いた最新のリハビリも開始しています。また、脳卒中連携パスを用いて急性期から回復期への患者さんの管理を行うことで連携がスムーズとなり、地域に信頼される脳卒中センターが構築されています。

2009年に手術顕微鏡（Zeiss社OPMI Pentrero）も新しくなり、機能性が向上し、術中蛍光血管造影が可能となり、脳動脈瘤、頸動脈内膜剥離術、バイパス術等で、より安全・確実な治療が可能となりました。また、2011年に神経内視鏡（軟性鏡：オリンパス社、硬性鏡：STORT社）を導入し、低侵襲治療として、脳出血、硬

膜下血腫、下垂体、動脈瘤治療等に積極的に使用しています。2012年12月より3.0T MRIが導入され、2台のMRIが稼働し、急患対応ならびに、画像診断の向上が図れています。

また、16ch神経生理モニターを導入し、術中モニタリングやICUでの脳波モニタリングで、より安全・確実な治療が可能となり、2013年4月から血管内治療専門医による動脈瘤塞栓術、頸動脈ステント留置術、脳梗塞に対する緊急血行再建術が常時可能となり、2014年6月には新しい血管造影機器（フィリップス社）に更新されました。画質が精細かつクリアとなり、また3D画像・CT様画像がリアルタイムに撮影でき、治療が安全・スムーズに行えるようになりました。

手術に関しては、血管内治療が増え、年間件数も年々増加しています。

福岡大学脳神経外科教室の協力のもと、脳神経外科疾患の全般にわたる治療が可能となり、今後はさらなる脳卒中治療の充実を図るため、院内での教育、脳卒中リハビリテーション認定看護師による患者・家族への指導、地域への啓蒙活動を行い、地域医療に貢献していきたいと思っています。

### ■主な診療実績

- ・外来患者数:6,052名 ・入院患者数:555名(2014年 566名)
- ・手術症例数:216件、脳虚血患者 190名 t-PA 12例 (件)

手術名	2013年(1月~12月)	2014年(1月~12月)	2015年(1月~12月)
開頭クリッピング	18(SAH 7)	19(SAH 11)	15(SAH 7)
動脈瘤コイルリング	11(SAH 7)	12(SAH 2)	12(SAH 3)
脳出血開頭血腫除去	18	18	20
脳動静脈奇形摘出	1	1	0
頸動脈内膜剥離術	6	9	9
頸動脈ステント留置術	13	13	14
STA-MCAバイパス	1	3	1
脳腫瘍摘出(下垂体)	15(1)	18(2)	20(6)
急性硬膜外血腫	2	2	0
急性硬膜下血腫	8	22	8
慢性硬膜下血腫	44	33	21
V-Pシャント	8	8	12
頭蓋外ステント	0	5	5
頭蓋形成術	3	8	3
髄液ドレナージ	9	15	15
外減圧	2	8	3
頸椎前方固定	0	1	1
腫瘍除去	1	0	5
神経血管減圧術	0	0	0
緊急血行再建術	5	15	15
上記以外血管内治療	7	10	13
その他	26	24	24
計	198	244	216

Dept. of Cardiovascular Surgery

# 心臓血管外科

低侵襲心臓手術(MICS: Minimally Invasive Cardiac Surgery)も可能となりました。

■診療担当医 ※2016年7月31日現在



副院長・救急部長  
**柴田 隆一郎**  
(しばた りゅういちろう)

長崎大学 昭和54年卒  
医学博士  
日本外科学会外科専門医  
日本救急医学会専門医  
日本胸部外科学会認定医  
日本胸部外科学会正会員  
日本胸部外科学会九州地方会評議員  
長崎大学心臓血管外科非常勤講師  
下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術実施医



部長  
**谷口 真一郎**  
(たにくち しんいちろう)

長崎大学 平成11年卒  
医学博士  
日本外科学会専門医  
日本胸部外科学会正会員  
日本胸部外科学会九州地方会評議員  
三学会構成心臓血管外科修練指導者  
三学会構成心臓血管外科専門医  
心臓血管外科国際会員  
日本脈管学会認定脈管専門医  
下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術実施医  
ICD(インフェクション・コントロールドクター)



副部長  
**中路 俊**  
(なかじ しゅん)

長崎大学 平成14年卒  
日本外科学会専門医  
三学会構成心臓血管外科専門医  
日本脈管学会認定脈管専門医  
腹部ステントグラフト実施医  
心臓リハビリテーション指導士  
下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術実施医

## 診療内容

24時間緊急に対応できる体制を整え、心臓・大血管疾患、末梢血管疾患の外科治療を中心に行っています。特に最先端治療である低侵襲手術として、①心臓弁膜症に対する右開胸小切開手術、②胸部・腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術、③下肢静脈瘤に対するレーザー焼灼術を積極的に行っており、体への負担が少ないやさしい専門医療を心がけています。長崎大学病院や地域医療機関と綿密に連絡を取り合い、長崎県北の循環器医療に貢献できるよう努めています。

### ①心臓疾患

心臓の病気には数多くの種類がありますが、大きくは生まれつき心臓に異常がある先天性疾患と、生まれた後に病気が生じる後天性疾患に分かれます。例えば先天性疾患には、心臓の壁に穴が開いている心房中隔欠損症や、心室中隔欠損症などがあります。後天性心臓疾患には心臓を栄養する血管が狭くなったりつまったりする狭心症や心筋梗塞、心臓を仕切る弁膜(大動脈弁・僧帽弁・三尖弁・肺動脈弁)に異常が生じる弁膜症などがあり、それらの病気に対し、冠動脈バイパス術や弁置換術・弁形成術などの外科治療を行っています。特に最近では、高齢者の方々の手術が増加しており、

手術侵襲を少なくするために人工心肺を使用しない心拍動下冠動脈バイパス手術を積極的に行っています。

### ②大血管疾患

大血管の病気は血管壁に亀裂が入る大動脈解離と、血管が次第に拡張してくる大動脈瘤などに大きく分かれます。特に、大動脈解離は診療に急を要する場合があります。そのような急を要する病気に対しても、私たちは24時間緊急に対応できる体制を整え診療を行っています。大動脈瘤に関しては動脈瘤を切除して人工血管に取り換える手術が一般的ですが、私たちの施設ではステントグラフト内挿術を行うことも可能であり、多くの治療法の提案ができ、その中から最適と思われる治療を受けることが可能です。

#### 〈ステントグラフト治療とは?〉

ステントグラフト治療とはカテーテルで血管内に人工血管を留置する方法で、利点として一般の手術より体への負担は軽減され、入院期間も短縮できます。しかし、動脈瘤の状態で適応が制限されることや治療効果などの問題点があります。個々の症例ごとによく検討する必要があります。今後さらに増加していくと考えられます。

### ③末梢血管疾患

末梢血管疾患は動脈疾患と静脈疾患に分かれます。足の動脈が狭くなったりつまったりする閉塞性動脈硬化症については、下肢バイパス手術や血管の中から風船で治療する血管内治療を行っています。静脈疾患の外科治療では静脈瘤に対して血管エコーを用いて

診療し、手術の際にも血管エコーで静脈瘤の様子をみながら、適切で最小限の皮膚切開を行う方法で、ストリッピング手術や逆流している静脈の内側からレーザーで静脈の壁を焼く「血管内レーザー焼灼術」を行っています。

## 診療実績

手術名	心臓血管外科の実績(手術件数)			
	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
開心術(OPCAB)	31(13)	45(11)	57(12)	33(8)
胸部大血管(ステントグラフト)	10(2)	7(3)	10(9)	12(6)
腹部大血管(ステントグラフト)	21(11)	31(10)	17(11)	26(13)
末梢動脈	21	25	20	15
末梢静脈(下肢静脈瘤レーザー焼灼術)	73	145(111)	169(145)	157(138)
内シャント造設術	36	32	38	48

## 認定施設

- ・心臓血管外科学会認定修練施設
- ・日本脈管学会認定研修関連施設
- ・胸部・腹部ステントグラフト実施施設
- ・下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術実施施設

Dept.of Dermatology

# 皮膚科

皮膚科は月曜日から金曜日まで毎日午前9:00～12:00まで一般外来診療を行っています。  
午後は検査・外来小手術・院内外来診療・入院患者診療などを行っています。

■診療担当医 ※2016年7月31日現在



部長

山口 宣久

(やまぐち のりひさ)

福岡大学 平成8年卒

## 診療内容

皮膚科領域全般にわたり診療しています。爪疾患や毛髪疾患、および粘膜疾患(口腔・陰部)の一部も皮膚疾患に含まれます。

湿疹、薬疹、尋常性乾癬、水疱症、じんましん、水虫、ニキビ、ヘルペス、虫さされ、やけど、切り傷、床ずれなどのほか、皮膚・皮下腫瘍の検査・手術、巻き爪(陥入爪)

に対する処置、皮膚症状を伴う糖尿病・膠原病などの内科的疾患に伴う皮膚症状も行っています。

重篤な症状を伴う発疹については入院加療を行い、毎日の診察にて症状変化を確認しながら治療を行います。

## ■主な検査・治療

### 《検査》

- ・貼付試験(パッチテスト):歯科金属などの金属アレルギーの検査
- ・真菌検査や皮下腫瘍の診断補助として、ダーモスコピー、エコー、CT、MRI検査などを用いた画像検査
- ・皮膚生検:疾患の診断、病変の深達度を診断するため、病変を含めて皮膚を一部切除します。局所麻酔下に実施しますので、以前に抜歯などの際、局所麻酔で気分が悪くなった方は、予めその旨お教えてください。

### 《治療》

- ・冷凍凝固療法
- ・光線療法:ナローバンドUVB,エキシマライト
- ・局所麻酔下の外来小手術
- ・巻き爪の治療:弾性ワイヤー治療,陥入爪根治術療法(フェノール法)
- ・男性型脱毛症:プロペシア(保険適用外)

## 診療実績

### ■患者数

- ・一般外来(入院中外来を除く)…………… 4,535人
- ・入院…………… 56人

### ■外来手術件数

- ・皮膚,皮下腫瘍切除術…………… 20例
- ・皮膚悪性腫瘍切除術…………… 3例
- ・陥入爪根治術…………… 6例

### ■検査件数

- ・皮膚組織試験採取術(皮膚生検)…………… 45例

### ■入院手術件数

- ・皮膚,皮下腫瘍切除術…………… 1例
- ・陥入爪根治術…………… 1例

Dept.of pediatrics

# 小児科

子どもの心と体の健康維持に誠実に取り組みます。

## ■診療担当医 ※2016年7月31日現在



診療部長  
**山田 克彦**  
(やまだ かつひこ)

大分医科大学 平成2年卒  
日本小児科学会認定小児科指導医  
日本循環器学会認定循環器専門医  
日本川崎病学会会員  
日本小児アレルギー学会会員



部長  
**犬塚 幹**  
(いぬづか みき)

大分医科大学 平成6年卒  
日本小児科学会認定小児科専門医  
日本小児神経学会認定小児神経専門医  
日本てんかん学会認定てんかん専門医指導医  
日本外来小児科学会会員  
日本小児東洋医学会会員  
日本小児心身医学会会員

## 診療内容

地域の子どもたちの心と体のすこやかな成長を支援し、保護者への懇切でいねいな説明を心がけています。

新生児を除く乳児から思春期にかけての小児期発症の内科的疾患を、常勤医2名体制で、地域の先生方からのご紹介患者さんを中心に診療しています。また、

医師の専門性を生かして、小児循環器疾患、小児神経疾患の専門医療を行っています。

「子どもの現代病」とも言われる、心身症や発達障害、食物アレルギー、生活習慣病(肥満)にも正面から取り組んでいます。

## 診療実績

### ■入院

区分	件数
入院延患者数	1,043
新入院患者数	184

### ■入院患者の内訳

ICD	分類	件数	主な疾患	件数
A-B	感染症および寄生虫症	24	急性胃腸炎	13
E	内分泌、栄養および代謝疾患	13	低身長	8
F	精神および行動の障害	2		
G	神経系の疾患	5	てんかん	4
I	循環器系の疾患	4	起立性調節障害	2
J	呼吸器系の疾患	90	肺炎	61
K	消化器系の疾患	1		
M	筋骨格系および結合組織の疾患	7	川崎病	7
N	腎尿路生殖器系の疾患	7	尿路感染症	4
P	周産期に発生した病態	1		
Q	先天性奇形、変型および染色体異常	2		
R	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	2	熱性痙攣	2
S-T	損傷、中毒およびその他の外因の影響	26	食物アレルギー	25
合計		184		



**■外来**

区 分	件 数
外来延患者数	3,982
初診（新規 ID 取得）患者数	370

**■専門的医療**

区 分	件 数
心身症カウンセリング	158
脳波検査	189
心エコー検査	237
トレッドミル試験	14
経口糖負荷試験（OGTT）	12
経口負荷試験（食物アレルギー）	23
成長ホルモン分泌刺激試験	6

Dept. of urology

# 泌尿器科

基幹病院として「前立腺がん撲滅キャンペーン」に積極的に参加しています。

■診療担当医 ※2016年7月31日現在



部長  
**徳永 亨介**  
(とくなが こうすけ)

金沢医科大学 平成 8年卒  
日本泌尿器科学会認定専門医



理事  
非常勤  
**南 祐三**  
(みなみ ゆうぞう)

東京医科大学 昭和53年卒  
日本泌尿器科学会認定専門医・指導医

## 診療内容

男性特有の病気である前立腺疾患をはじめとして、排尿に関係するすべての臓器(腎臓、尿管、膀胱、尿道)の疾患の患者さん(女性・小児を含む)を対象に、診断、治療を行っています。

診療している主な疾患は以下のとおりです。

〈前立腺疾患〉前立腺肥大症、前立腺がん、前立腺炎など

〈尿路結石症〉腎臓結石、尿管結石、膀胱結石、尿道結石など

〈尿路感染症〉腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎など

〈その他〉脳・脊髄障害による神経因性膀胱、尿失禁、勃起障害、腎臓がん、膀胱がん、アルドステロン症・クッシング症候群などの副腎疾患、停留精巣など

日本人の前立腺がんは近年急増しており、この10年間で死亡者数がおよそ2倍になっています。高齢化が進む中であって、患者数はさらに増加することが懸念されています。当科は、国が5ヵ年計画で取り組んでいる「前立腺がん撲滅キャンペーン」に、佐世保の基幹病院として積極的に参加しています。

## 診療実績

全く自分自身の排尿状況と重なることに気づく今日この頃であります。むしろ患者さんの立場での診療ができ有り難く思っております。

当院も地域医療支援病院の資格が与えられ、当科がいかに関与できるかという診療姿勢が問われております。そうとは言え、診療能力(マンパワー)が資格取得後に大幅にアップしたわけではありません。資格取得前と同じマンパワーで、従来よりもさらに地域に貢献できる診療体制を築くためにはいかにあるべきかを考えます。

それを達成できるかどうかは、一つはいかに地域の医療機関と連携できるかが重要な課題であろうことは推察

できます。病診連携は各施設でそれぞれに努力されており、少しずつではありますが結果が出てきている状況です。ただ、病病連携となると、まだまだ各基幹病院間に長年の壁があり、連携がうまくとれず患者さんにご迷惑をおかけするようなことを経験されるのが現状でありましょう。

2015年度は各基幹病院の得意分野や施設基準を踏まえての病病連携を行い、当科が特化できる分野を他の医療機関に認知していただいて、その事を基礎においた地域医療貢献を念頭において活動してきたつもりですが、まだまだ認知度が低く次年度も頑張る理念達成のための努力を継続する覚悟であります。

## ■主な診療実績

経尿道的膀胱腫瘍切除術 ……………	33例	膀胱全摘除術 + 尿路変更術 ……………	0例
経尿道的前立腺切除術 ……………	4例	その他手術 ……………	8例
前立腺がん全摘出術 ……………	0例	前立腺針生検 ……………	37例
腎摘出術 ……………	0例		

## 認定施設

泌尿器科専門医教育施設

Dept. of Otolaryngology

# 耳鼻咽喉科

中耳炎や難聴、鼻炎・副鼻腔炎などの専門的診断・治療を実施しています。

## 診療担当医 ※2016年7月31日現在



部長  
**大里 康雄**  
(おおさと やすお)

長崎大学 平成9年卒  
日本耳鼻咽喉科学会専門医



副部長  
**梅木 寛**  
(うめき ひろし)

2016年3月退職  
嬉野医療センターへ異動

富山医科薬科大学 平成11年卒  
日本耳鼻咽喉科学会専門医

## 診療内容

2016年4月より、これまでの常勤医2名体制から、常勤医1名+非常勤1名へ変更となりました。

それに伴い、頭頸部腫瘍手術などに関しましては当科では対応できなくなりましたが、それ以外の領域につきましては、従来と同様のサービスを提供できるよう、努力しております。

### <耳疾患>

- ・めまい、難聴などの精査や治療
- ・滲出性中耳炎の治療や、鼓膜チューブ留置術
- ・慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎などに対する精査や、鼓膜形成手術・鼓室形成手術
- ・急性中耳炎、耳内異物などに対する処置や治療

### <鼻疾患>

- ・アレルギー性鼻炎に対する精査や、薬物治療・外科的治療など
- ・慢性副鼻腔炎、副鼻腔嚢腫、鼻中隔彎曲症、鼻骨骨折などに対する手術

- ・急性鼻炎、鼻出血、嗅覚障害、鼻腔内異物などに対する処置や治療

### <咽喉頭・頸部疾患>

- ・咽喉頭炎、扁桃炎、唾液腺炎、頸部リンパ節炎など、急性炎症に対する治療
- ・慢性扁桃炎、扁桃病巣感染症、閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する扁桃摘出手術
- ・小児の滲出性中耳炎に対するアデノイド切除術・口蓋扁桃摘出手術
- ・咽頭異物に対する内視鏡下異物摘出術
- ・咽喉頭領域の悪性腫瘍に対する組織検査や放射線治療
- ・嚥下障害の症例に対する嚥下内視鏡検査や、言語聴覚士による嚥下リハビリテーション

## 診療実績

嚥下機能評価(嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査).....45例  
 両側口蓋扁桃摘出術.....15例  
 気管切開術.....8例  
 内視鏡下鼻内副鼻腔手術.....5例  
 全麻下異物摘出術.....4例  
 鼻中隔矯正術.....3例

アデノイド切除.....2例  
 鼓室形成術.....1例  
 鼓膜形成術.....1例  
 声帯ポリープ切除術.....1例  
 耳下腺良性腫瘍.....1例  
 耳瘻孔手術.....1例

Dept. of Radiology

# 放射線科

胸腹部の悪性腫瘍治療にハイパーサーミアを積極的に使用しています。

**■診療担当医** ※2016年7月31日現在理事・副院長  
地域医療連携センター長  
医療情報本部長**平尾 幸一**  
(ひらお こういち)長崎大学 昭和56年卒  
医学博士  
日本医学放射線学会診断専門医  
日本医学放射線学会研修指導者  
日本ハイパーサーミア学会認定医  
検診マンモグラフィ読影認定医  
九州・山口ハイパーサーミア研究会世話人

診療部長

**堀上 謙作**  
(ほりかみ けんさく)長崎大学 平成5年卒  
医学博士  
日本医学放射線学会診断専門医  
日本医学放射線学会研修指導者  
検診マンモグラフィ読影認定医

部長

**末吉 真**  
(すえよし まこと)長崎大学 平成8年卒  
日本医学放射線学会診断専門医

非常勤

**山崎 拓也**

(やまざき たくや)

宮崎大学 平成8年卒  
日本医学放射線学会治療専門医  
日本放射線腫瘍学会認定医  
日本がん治療認定医

## 診療内容

**■画像診断業務**

- ・CT、MRI、核医学、血管造影（心臓カテーテル検査、脳血管造影以外）による検査と診断は全て放射線科が行っています。
- ・CT、MRI検査は、地域医療機関に積極的に利用していただいています。（1,442件/年）
- ・当院の特徴の一つは、胸部単純X線写真の読影を行っていることであり、主治医とのダブルチェックの役割を果たしています。
- ・検診マンモグラフィ読影は、マンモグラフィ読影認定医3名（放射線科及び外科）がダブルチェックを行っています。
- ・検診の胸部写真・肺CT・脳MRIは放射線科と健診センター（健診医）がダブルチェックを行っています。
- ・CT、MRI、核医学の報告書は約99%が検査後24時間以内に作成されています。

**■IVR**

- ・血管系IVRは肝腫瘍に対する肝動脈化学塞栓療法が最も多い割合を占めています。
- ・内視鏡的止血が困難な症例に対して消化管出血の動脈塞栓術を実施しています。
- ・非血管系のIVRは胆道系（ドレナージや胆道内瘻化）、膿瘍ドレナージが多くを占めています。
- ・胸腹部大動脈ステント留置術を心臓血管外科と共同で行っています。

**■放射線治療・ハイパーサーミア（温熱療法）**

- ・毎週水曜日に、長崎大学の日本医学放射線学会治療専門医による放射線治療計画を行っています。
- ・地域医療機関より、乳房温存術後や子宮がんの放射線治療依頼を受けています。
- ・他院で化学療法を受けている方でも当院でハイパーサーミア（温熱療法）を受けることが可能です。

## 診療実績

### 画像診断

胸部単純X線写真読影	18,314件
血管造影検査	130件
CT	14,704件
MRI	7,317件
マンモグラフィ	3,114件
核医学検査	1,005件

### IVR

血管系IVR	
肝動脈化学塞栓療法	40件
消化管出血の塞栓術	4件
リザーバー留置術	0件
透析シャントの血管拡張術	31件
大動脈ステント内挿術	19件
その他	15件
非血管系IVR	
胆道ドレナージ・内瘻化	13件
膿瘍ドレナージ	6件
生検(超音波・CTガイド下)	4件
マーキング(CTガイド下)	0件
その他	4件

### 放射線治療

乳房	52件
肺	18件
膀胱・前立腺	16件
肝臓・胆道・膵臓	20件
食道	9件
その他	35件

### ハイパーサーミア

32件

## 外来診療体制

### 画像診断業務・血管造影検査・IVR

月～金曜日 8:30～17:30

地域医療機関からの検査依頼も上記時間に実施しています。

なお救急等の緊急検査依頼は、365日24時間対応しています。

### 放射線治療

毎週水曜日に、長崎大学の日本医学放射線学会治療専門医による放射線治療計画を行っています。なお、水曜日が祝日の場合には、曜日を変更して放

射線治療計画を立てて行います。

### ハイパーサーミア

日本ハイパーサーミア学会認定医、臨床工学技士、看護師が共同で治療を実施しています。また、セカンドオピニオン外来も行っています。

### 健診への協力

健診画像(肺CT、脳MRI、胸部写真、マンモグラフィ)の全件を読影しています。

## 認定施設

- ・日本医学放射線学会専門医修練機関施設
- ・日本ハイパーサーミア学会認定施設
- ・マンモグラフィ検診施設画像認定施設

Dept. of anesthesiology

# 麻酔科

術中の麻酔管理とICUの管理・運営を行っています。

**■診療担当医** ※2016年7月31日現在

診療部長

**堤 雅俊**

(つつみ まさとし)

長崎大学 昭和62年卒  
麻酔標榜医

部長

**福島 浩**

(ふくしま ひろし)

長崎大学 平成 5年卒

## 診療内容

当科はスタッフ2名で術中麻酔管理を主な仕事としており、そのほとんどは全身麻酔症例です。また、ICUにお

いて看護課長・主任と共に管理・運営を行っています。

## 診療実績

2015年度の手術症例は1,565例で、全身麻酔症例は995例(うち緊急手術は121例)でした。

各科別では外科457例(緊急59例)・脳神経外科103例(緊急40例)・心臓血管外科245例(緊急17例)・整形外科157例(緊急2例)・耳鼻咽喉科30例(緊急3例)・その他3例でした。

2015年度の手術時間では、8時間を超える症例が16例で、最長は10時間41分でした。年齢別では、80歳以上の高齢者が180例でした。うち、90歳以上が13例でした。

麻酔法はセボフルレン・レミフェンタニルによるバランス

麻酔またはプロポフォール・レミフェンタニルによる全静脈麻酔です。また、術後の疼痛管理を考え、積極的に硬膜外麻酔を併用しています。

ICUは10床で運営しており、重症者と術後(全身麻酔後)を受け入れています。

2015年度は1,061名の入室があり、稼働率は81.2%で11月が89.7%と最も高く、10月が74.5%と最も低い稼働でした。内訳は外科415名・脳神経外科366名・循環器内科62名・心臓血管外科102名・一般内科47名・消化器内科34名・整形外科35名でした。

Dept. of Pathology

# 病理部

他診療科医と連携して病理診断やカンファレンスを実施しています。

## 診療担当医 ※2016年7月31日現在



診療部長  
臨床検査部長  
**米満 伸久**  
(よねみつ のぶひさ)

長崎大学 昭和56年卒  
医学博士  
日本病理学会病理専門医 研修指導医  
日本臨床細胞学会細胞診専門医 指導医  
日本臨床検査医学会管理医  
死体解剖資格  
ICD(インフェクション・コントロール・ドクター)  
佐賀大学医学部臨床教授  
佐賀大学医学部非常勤講師  
佐世保市医師会看護学校非常勤講師  
Pathology International編集委員

非常勤

**戸田 修二**  
(とだ しゅうじ)

佐賀大学 昭和59年卒  
医学博士  
日本臨床病理学会病理専門医 研修指導医  
日本臨床細胞学会細胞診専門医 指導医  
死体解剖資格  
佐賀大学医学部 病因病態科学講座 臨床病態病理学 教授

非常勤

**福岡 順也**  
(ふくおか じゅんや)

滋賀医科大学 平成7年卒  
医学博士  
日本臨床病理学会病理専門医 研修指導医  
日本臨床細胞学会細胞診専門医 指導医  
死体解剖資格  
長崎大学大学院病理学教授

非常勤

**内橋 和芳**  
(うちばし かずよし)

佐賀大学 平成11年卒  
医学博士  
日本病理学会病理専門医 研修指導医  
日本臨床細胞学会細胞診専門医 指導医  
日本整形外科学会専門医  
死体解剖資格

非常勤

**田畑 和宏**  
(たばた かずひろ)

鹿児島大学 平成13年卒  
医学博士  
日本病理学会病理専門医  
死体解剖資格  
外科認定医  
長崎大学病院病理部助教

非常勤

**三浦 史郎**  
(みうら しろう)

長崎大学 平成14年卒  
死体解剖資格



非常勤  
**山本 美保子**  
(やまもと みほこ)

佐賀大学 平成19年卒  
日本病理学会病理専門医  
死体解剖資格

非常勤

**田中 伴典**  
(たなか ともり)

富山医科薬科大学 平成21年卒

非常勤

**山崎 真希子**  
(やまさき まきこ)

佐賀大学 平成22年卒

非常勤

**上木 望**  
(うえき のぞみ)

長崎大学 平成24年卒

非常勤

**石田 佳央理**  
(いしだ かおり)

藤田保健衛生大学 平成25年卒

## 診療内容

日々の細胞診、生検診断、手術摘出臓器の病理診断、術中迅速診断、病理解剖および臨床病理カンファレンスを主な業務としています。

細胞診では、婦人科細胞診や尿細胞診はLiquid base cytology (LBC)を用いており、胸腹水、甲状腺など、他の領域でもLBC法を併用することにより、細胞を効率的に収集し診断するとともに、免疫組織化学や分子生物学への試料の応用を開始しました。穿刺細胞診

もより良い標本を作成するため、細胞検査士をはじめとする病理部のスタッフが穿刺現場で、臨床医が採取した検体の処理に当たっています。

生検診断や摘出臓器の診断ではH.E.染色や特殊染色に加え、免疫組織化学がルーチン化されています。2015年度更新した自動免疫染色装置を用いて作業の効率化を図るとともに、精度の高い染色を行っています。乳腺では従来からホルモンレセプターやHER2の



染色のため、免疫組織化学が行われています。HER2染色では組織の固定状態が重要ですので、摘出後なるべく早く緩衝ホルマリンを摘出臓器に注入固定するようにしています。また、胃癌においても分子標的治療の開始に伴いHER2染色やFISHによる診断と、大腸癌や肺癌でも分子標的治療の為の遺伝子診断を行っています。この為、手術摘出臓器も含め、原則的に中性緩衝ホルマリンで固定を行っています。

消化器科や外科系の医師とは、摘出臓器の切り出し時に立ち会ってもらい、実際の臓器の所見を術前の画像診断等と付き合わせて切り出しています。術前カンファレンスへの参加とともに、臨床医がそれぞれの症例で何を問題としているかをお互いに確認しつつ、臓器の検索を行うことが可能です。生検診断、摘出臓器の診断とともに、可能な限り早急に結果を臨床医に報告しています。消化器系の摘出標本については、毎週術前カンファレンス後に、術後の臨床病理カンファレンスで症例を呈示しています。消化器系以外の外科提出標本については、毎月合同カンファレンスを開催し、興味のある症例についてより詳細に検討を加えています。必要があれば、これらのカンファレンス後の追加検討も行っています。キャンサーボードにも同様に密に関与しています。また腎生検では蛍光抗体法を含め腎臓内科医と一緒に組織を検鏡し、臨床データと照合しつつ診断のみならず治療方針も検討しています。

術中迅速診断では、乳腺のセンチネルリンパ節および温存術に於ける断端の検索が著しく増加しています。

1例にかかる時間が長くなる傾向にありますが、クリオスタット1台と病理部の技士数からいたしかたないところで

す。また術中細胞診との併用も日常的に行い、より精度の高い術中診断を行えるようになりました。

剖検はどこの施設でも年を追って減少していますが、当院でも剖検数が減少しています。剖検症例はほぼ全例実際の固定臓器を示しながら、組織所見もまじえてCPCを行うことで解剖の結果を臨床へ還元しています。2015年度はCPCを9回開催しました。またご希望のあるご遺族には主治医からCPCをふまえた最終的な結果を報告させていただいています。

学会や研究会の支援も病理部で力を入れており、病理に関連したスライドの作成依頼は例年 30~40例程度あります。若い医師には消化器のカンファレンスなどで内視鏡所見や ESDなどの所見と照らし合わせつつ、病理所見も自ら発表しています。また病理部としての学会活動や研究会での発表の他、学会誌の編集委員としての査読業務、論文や教科書の執筆などの学術活動、大学や看護学校での講義などの活動も幅広く行いました。

佐賀大学病理学教室や長崎大学原研病理学教室・病理部とも密接な連携関係にあります。大学の教授以下スタッフにも病理診断に加わっていただき、ほぼ全症例をダブルチェック、あるいはトリプルチェックしています。また、大学の教室の協力により、一人病理医のフォローアップとともに、大学の若手の先生の人体病理学の卒後教育にも積極的に取り組んでいます。

また、長崎大学とVPNを接続し、デジタルパソロジーによるコンサルテーションシステム構築に着手しました。来年度より稼働予定です。

## 診療実績

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
組織診断	2,279件	2,358件	2,922件	3,161件
細胞診断	4,842件	4,837件	4,892件	5,291件
解剖	21件	10件	14件	12件
剖検CPC	10件	11件	7件	9件
診療病理カンファレンス	81件	51件	48件	45件

Dept. of Medical Center of Cognitive Disorders

# 認知症疾患医療センター

認知症は、早めの発見・早めの治療が大切です。

■診療担当医 ※2016年7月31日現在



認知症統括顧問  
センター長

井手 芳彦

(いで よしひこ)

長崎大学 昭和46年卒  
医学博士  
認知症サポート医  
日本神経学会認定専門医  
日本内科学認定内科医

## 診療内容

全国的に増え続ける認知症患者さんに対応して、当法人では2009年10月に長崎県から「認知症疾患医療センター」の認可を受け、同年12月から診療を開始しました。

認知症専門医1名、精神保健福祉士2名、高次脳機能検査担当作業療法士(OT)1名、専任看護師1名、専任診療アシスタント2名、医療秘書1名の総勢8名で運営しています。

認知症およびその疑いのある患者さんを診察し、確定診断と治療/介護方針を立て、地域の紹介元医師(かかりつけ医)、あるいは「認知症診療医」に紹介し、包括支援センター・介護施設へも誘導し、適切な治療と介護のアドバイスをを行っています。

通常の診療では、ご家族から詳細な問診を行い、本

人の診察、高次脳機能検査、脳MRIかCTを施行します。場合によって、脳血流SPECT、MIBG心筋シンチグラム、DAT-Scanまで行います。

病歴と高次脳機能検査で直ちに診断がつく認知症もありますが、正常加齢か認知症初期かが判然としないMCIが最近増えてきました。周辺症状または行動・心理的症状(BPSD)を伴う患者さんの場合は、ご家族への適切な介護指導と、BPSDをやわらげる薬物処方や連携精神科病院への紹介を迅速にし、介護者の肉体・精神的負担を軽くすることを第一に考えています。

2011年春から夏にかけて、新しい認知症治療薬が3種類登場しましたので、これらの新薬を含め4種類の認知症治療薬について、認知症講演会や勉強会を開催し、市内の認知症診療医を中心に、新薬の適応や使い分けの研修を続けています。

## 診療実績

当センターの受診希望者は増える一方です。予約から初診までの平均待ち期間が2ヶ月と長いのが悩みの種でしたが、2013年7月より診察と諸検査をスピードアップする診療システムに変更しました。

月曜日～木曜日は午前中の2時間半、金曜日は午後の2時間半を外来診療に当て、月平均40名の新規患者さんを診ています。しかしながら認知症患者さんからの

相談は増えつづけ、現在では予約から診療開始まで4～6週間ほどかかるようになりました。短縮できる努力をしていますが、なかなか困難です。

2015年4月から2016年3月までの1年間で、ご家族から直接あるいは医療機関経由で、初診患者さん397人の診察を行いました。また、電話・面談では年間783件の相談を受けました。

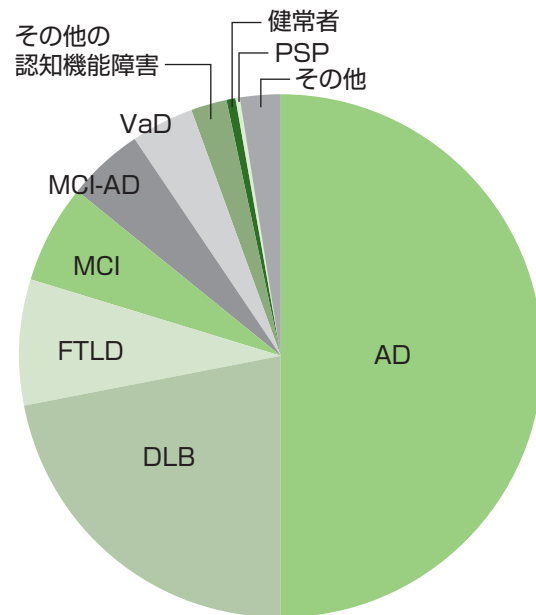
鑑別診断の内訳は、正常加齢と認知症の境界(MCI)が11%、アルツハイマー型認知症(AD)が約50%、その80%以上はなんらかの血管障害(慢性脳虚血)を伴っています。レビー小体型認知症(DLB)が22%、前頭側頭葉変性症(FTLD)が8%です。純粋な血管性認知症は4%以下です。なかでもDLBとFTLDがじわりと増えてきました。DLBは心臓突然死が危惧され運動障害も加わりますので、他の認知症に比べて薬物治療・介護に気を遣います。FTLDはBPSDが最も出やすく、在宅での介護は実際上非常に困難です。しかし、新薬メマンチンの登場で、ある程度の段階までは在宅でも介護が可能になりました。

受診予約をして診療待ちの家族、および確定診断の

ついた患者さんの家族を対象に、佐世保中央病院講義室で「認知症健康教室:メモリー・クラスルーム」を月1回行っています。認知症の基礎、介護の基礎、介護保険のしくみと介護施設の上手な利用法などを、我々スタッフが分担して3時間ほど講義します。最後に「認知症の人と家族の会」に所属する介護経験者による介護体験記を聴いていただきます。授業に参加したご家族からは、患者さんの心の中がよくわかるようになり対応がやさしくなった結果、患者さんのBPSDが少なくなり介護が楽になった、という声が多数聴かれるようになりました。今後は、一般かかりつけ医の診療を受けている認知症患者さんの家族にも門戸を開き、より多くの家族にこの授業を受けていただきたいと考えています。

### ■疾患別割合 (2015.4.1~2016.3.31)

疾患名	人数	%
アルツハイマー型認知症	199	50.1
レビー小体型認知症(DLB)	87	21.9
前頭側頭葉変性症(FTLD)	31	7.8
MCI	24	6.0
MCI-AD	19	4.8
血管性認知症(VaD)	15	3.8
その他の認知機能障害	9	2.3
Healthy	2	0.5
進行性核上性麻痺(PSP)	1	0.3
その他	10	2.5
合計	397	100.0



### ■相談件数

(単位:件)

	相談件数	初診のための相談	定期受診・その他
相談件数	783(1,038)	659(815)	124(223)
電話		594(744)	—
面談		65(71)	—

( )は前年度統計

### ■診療件数

(単位:件)

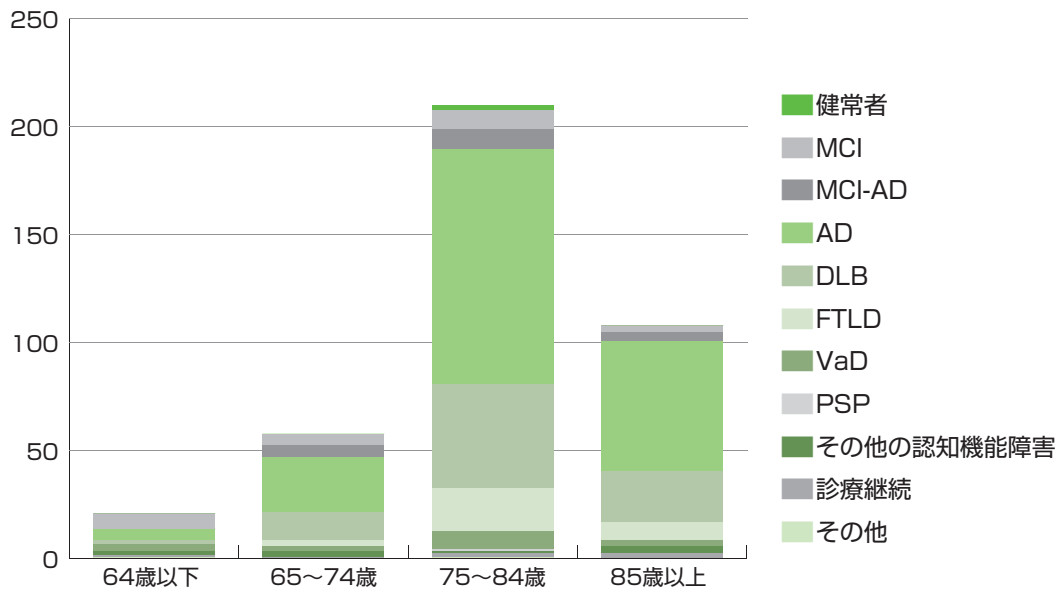
	初診	追加検査の結果説明	薬効評価	定期受診
患者数	397(476)	55(74)	36(96)	72(88)

( )は前年度統計

■年代別 疾患の割合 (2015.4.1~2016.3.31)

	~64	65~74	75~84	85~
Healthy	0	0	2	0
MCI	7	5	9	3
MCI - AD	0	6	9	4
アルツハイマー型認知症	5	25	109	60
レビー小体型認知症(DLB)	2	13	48	24
前頭側頭葉変性症(FTLD)	0	3	20	8
血管性認知症(VaD)	3	2	8	3
進行性核上性麻痺(PSP)	0	0	1	0
その他の認知機能障害	2	3	1	3
診療継続	1	1	2	3
その他	1	0	1	0
合計	21	58	210	108

(単位:人)



■初診受診者居住地

(単位:人)

	2015.4.1~2016.3.31
佐世保市内	334(83.9%)
市外・県外	64(16.1%)

市外：平戸市(16)、西海市(16)、松浦市(12)、佐々町(6)  
波佐見町(7)、上五島(1)、東彼杵町(1)、対馬(1)  
県外：佐賀県(3)、大分県(1)

(単位:人)

■初診患者の介護保険

(単位:人)

	2015.5.1~2016.3.31
介護保険有り	199
介護保険無し	196
不明	2
佐世保市内地域包括支援センターへの紹介	97(115)

( )は前年度統計

## 認知症サポート医等フォローアップ研修会(佐世保・長崎県北地区)

2016年2月27日 佐世保市医師会館で開催

1)基調講演 「レビー小体型認知症の診療」

熊本大学 神経精神科 准教授 橋本 衛先生

2)座談会 「認知症の人が思いを語る」

福田人志氏(佐世保市在住、2015.12.14にNHKテレビ出演)

3)事例検討会

Health Care Center

# 健康増進センター

がんや生活習慣病の早期発見を目指し、予防医学活動を行っています。

## 診療担当医 ※2016年7月31日現在



センター長  
健康管理部長  
**中尾 治彦**  
(なかお はるひこ)

長崎大学 昭和54年卒  
医学博士  
日本人間ドック学会社員(旧評議員)・ドック指導医・専門医 認定医  
日本外科学会認定医  
日本消化器病学会専門医  
日本消化器外科学会認定医  
日本医師会認定産業医  
九州予防医学研究会理事



特別顧問  
**石丸 忠之**  
(いしまる ただゆき)

長崎大学 昭和42年卒  
医学博士  
日本産科婦人科学会名誉会員・専門医  
日本産婦人科内視鏡学会名誉会員  
日本産婦人科手術学会功労会員  
日本エンドメトリオース学会顧問  
絨毛性疾患研究会顧問  
日本医師会認定産業医



部長  
**寺園 敏昭**  
(てらその としあき)

長崎大学 昭和59年卒



医長  
**本多 幸**  
(ほんだ みゆき)

長崎大学 平成4年卒  
医学博士  
日本内科学会認定内科医  
日本医師会認定産業医



医師  
**永尾 奈津美**  
(ながお なつみ)

佐賀大学 平成21年卒  
日本内科学会認定内科医  
日本医師会認定産業医  
日本リウマチ学会リウマチ専門医  
インфекションコントロールドクター



医師  
\*神経内科(診療部長)と兼任  
**竹尾 剛**  
(たけお こう)

長崎大学 昭和59年卒  
医学博士  
日本神経学会専門医・指導医  
日本内科学会認定内科医  
日本医師会認定産業医

非常勤

**橋爪 聡**  
(はしづめ さとし)

広島大学 平成8年卒  
日本外科学会専門医  
日本ヘリコバクター学会認定医  
日本医師会認定産業医

非常勤

**田中 伴典**  
(たなか とものり)

富山大学 平成21年卒  
2016年3月退職

非常勤

**石田 佳央理**  
(いしだ かおり)

藤田保健衛生大学 平成25年卒  
2016年3月退職

非常勤

**北村 由香**  
(きたむら ゆか)

藤田保健衛生大学 平成16年卒  
2016年4月就勤

非常勤

**唐田 博貴**  
(からた ひろき)

富山大学 平成26年卒  
2016年4月就勤

## 基本理念・基本方針

### 【基本理念】

受診者の健康を支援し、活力のある地域社会の実現に貢献します。

### 【基本方針】

1. 生活習慣病の早期発見と予防の啓発に努め、健康の維持・増進をサポートします。
2. 検査技術や診断機器の精度向上を常に心がけ、質の高い検診を提供します。
3. 特定健診・保健指導を通して、受診者のライフスタイルを考えた継続的な支援を行います。
4. すべてのスタッフが相互に協力・連携して、受診者の皆様に満足いただけるサービスを提供します。
5. 健診業務で得られた個人情報等の守秘義務と、受診者ご自身の知る権利を遵守します。

## 施設沿革

設立：1996年4月1日

沿革：1996年 前身となる白十字会医療社会事業部設立

2002年 佐世保中央病院健康増進センターに改称  
(新館建設に伴い検査機器と環境の充実を図る)

2008年 人間ドック学会健診施設機能評価認定取得

## 認定施設・指定

- ・人間ドック学会健診施設機能評価(Ver.2)認定施設
- ・マンモグラフィ検診画像認定施設
- ・健康保険組合連合会指定健診施設
- ・全国健康保険協会管掌健診指定施設

## 健診内容

健康増進センターは、佐世保中央病院に併設された健診施設で、2002年にそれまでの白十字会医療社会事業部から、新たにゆとりのある空間での快適な受診環境へと整備されました。

ドック基本項目の上部消化管検査と乳がん子宮がん検診などを除いては、ワンフロアで受診可能な環境となっています。人間ドック健診をはじめ、様々な健診において、日本消化器病専門医、日本医学放射線学会専門医、日本内科学会認定内科医、検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師などの各専門スタッフが担

当し、健診の質の確保を図っています。

中尾は主として消化器系及びがん検診、石丸は婦人科系、寺園は主として呼吸器系と内科全般、竹尾は脳ドック、本多は内科一般、永尾は内科一般、橋爪は内視鏡を担当しております。

2008年12月、運営の合理性など第三者が評価する人間ドック学会の健診施設機能評価を受審し、認定を取得することができました。これからも、業務内容と環境の両面での見直しを行い、受診者目線で、質とサービスの向上に取り組んでいきたいと考えています。

## 健診実績

	2013年度	2014年度	2015年度
1日(日帰り)ドック	1,631	1,552	1,588
2日(宿泊)ドック	347	338	336
健診延べ件数	15,844	16,559	16,875

## 健診検査別実施数

検査名	実績数
胃内視鏡	3,343
胃透視	1,874
腹部超音波	2,320
心電図	6,122
眼底	2,168
眼圧	1,926
胸写	7,795
肺CT	696

検査名	実績数
マンモグラフィ	2,519
乳腺超音波	427
脳MRI	383
便潜血	5,783
大腸内視鏡	55
糖負荷試験	274
子宮頸部	3,055
子宮体部	150

## 研修医の紹介



**村田 和樹**

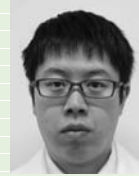
(むらた かずき)

佐賀大学 平成26年卒

今後日常診療で必要となる手技・救急症例を数多く経験させていただきました。それ以外にも研修医が希望した手技や症例、レクチャーなどは必ず実現していただき、本当に充実した2年間を過ごすことができました。

研修期間：2014年4月1日～2016年3月31日

2016年3月退職 佐賀大学病院へ



**田島 和昌**

(たじま かずあき)

長崎大学 平成26年卒

この1年間で今後必要になるさまざまな手技を経験することができ、たくさんの症例を経験することができました。院内のスタッフのみなさんの垣根が低く、本当に仕事しやすい環境の中研修することができました。お世話になりました。

研修期間：2015年4月1日～2016年3月31日

2016年3月退職 長崎大学病院へ



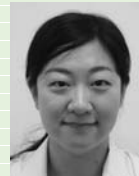
**大和 慎治**

(やまと しんじ)

長崎大学 平成28年卒

まずは患者さんに対しては真摯に接し、先生方や共に働く職員の皆さんへの感謝を忘れず、謙虚に貪欲に研修に取り組みます。より高みを目指し、少しでも多くのことを吸収したいと思っていますので、どうぞご指導よろしく申し上げます。

研修期間：2016年4月1日～2018年3月31日



**平尾 宜子**

(ひらお のりこ)

佐賀大学 平成28年卒

たくさんの症例、手技にふれ経験を積み、多くのことを積極的に吸収したいと思います。少しでも早く自分で考えて行動できるよう頑張りたいと思っていますので、2年間ご指導よろしく申し上げます。

研修期間：2016年4月1日～2018年3月31日





# 学会発表実績

## 呼吸器内科

### 学会・研究会

会期	学会名	演題	講師
2015年 8月28日	第6回長崎県北部感染症研究会	佐世保中央病院における肺炎治療の現状	小林 奨
2015年 11月10日	第77回長崎臨床感染症研究会	感染症に対する症例提示	小林 奨
2015年 12月5日	第21回長崎県呼吸ケア研究会	佐世保中央病院における呼吸療法サポートチーム活動の現状	小林 奨
2016年 2月26日	第56回日本肺癌学会九州支部 学術集会 第39回日本呼吸器内視鏡学会 九州支部総会	GnRH アナログ投与による治療に成功した 稀少部位子宮内膜症の1例	小林 奨

### 論文

題名	掲載誌	著者
性腺刺激ホルモン放出ホルモンアナログ投与による治療に成功した稀少部位子宮内膜症の1例	日本呼吸器学会誌 Jan 10, 2016 Vol.5, No.1	小林 奨・松瀬 厚人・小河原大樹 大島 一浩・副島 佳文・河野 茂

## 腎臓内科

### 講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2015年 5月30日	第79回 長崎大学第二内科学会	チオ硫酸ナトリウムが有効であった 手指のCalciophylaxisの1例	森 篤史

## 神経内科

### 講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2015年 10月14日	北松浦医師会・大塚製薬(株)共催 学術講演会	パーキンソン病の最近の話題	竹尾 剛
2015年 11月7日	難病医療講演会 (パーキンソン病)	パーキンソン病の理解と日常生活について	竹尾 剛

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2016年 3月23日	田辺三菱製薬(株)主催 長崎県北地区 ALS地域医療連携懇話会	ALSに対する最新の治療と医療連携	長崎川棚医療センター 神経内科 永石 彰子先生
		難病支援ネットワークの役割と医療連携	長崎県難病医療連絡 協議会 田原 雅子先生
		【ディスカッション】 地域連携ネットワーク構築について	(パネリスト) 佐世保中央病院 竹尾 剛 カナザワ内科クリニック 院長 金澤 一先生 長崎医療センター 神経内科 永石 彰子先生 長崎県難病医療連絡 協議会 田原 雅子先生

## 座長

会 期	学会・講演会名	演 題	講 師	座 長
2015年 6月30日	第121回 県北神経懇話会	<ショートレクチャー> BADに対する当院での治療方針 ～t-PA静注を含めて～	佐世保中央病院 脳神経外科 竹本 光一郎	竹尾 剛 阪元政三郎
		1.抗MOG抗体陽性視神経脊髄炎の1例	1.佐世保市立総合病院 神経内科 藤本 武士先生、 金本 正先生、 島 智秋先生、 宮崎 禎一郎先生	
		2.経鼻経管チューブによる機械的 刺激が誘因となり門脈内ガスを 伴った急性胃蜂窩織炎の一例	2.佐世保中央病院 脳神経外科 藤原 史明、福本 博順、 榎本 年孝、竹本光一郎、 阪元政三郎 消化器内視鏡科 松本 耕輔	
		2.経鼻経管チューブによる機械的 刺激が誘因となり門脈内ガスを 伴った急性胃蜂窩織炎の一例	3.佐世保市立総合病院 脳神経外科 林 之茂先生	
		4.脳幹型PRESの1例	4.長崎労災病院 脳神経外科 広瀬 誠先生、 藤本 隆史先生、 川原 一郎先生、 鳥羽 保先生	
5.痙縮に対するバクロフェン髄注 (ITB)療法の取り組みについて	5.長崎川棚医療センター 脳神経外科(神経内科) 藤岡 裕士先生			
2015年 10月20日	県北パーキンソン病治療 学術講演会	パーキンソン病に対する最近の 取り組みについて	長崎川棚医療センター 副院長 松尾 秀徳先生	竹尾 剛
		パーキンソン病に対する最近の取 り組みについて	長崎北病院 院長 佐藤 聡先生	長崎川棚医療 センター 副院長 松尾 秀徳先生

## リウマチ・膠原病センター

### 学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	発 表 者
2015年 4月23～25日	第59回日本リウマチ学会総会・学術集会	生物学的製剤不応RA患者に対するトファシチニブの有効性と安全性の検討	植木 幸孝
		高齢者のリウマチ性疾患	植木 幸孝
		当院における血清反応陰性関節リウマチ患者の背景と治療選択についての検討	荒牧 俊幸
		関節リウマチ患者に対する病診連携の取り組みと1年後の満足調査の実施	加藤 陽子 菅沼 徳恵
2015年 6月3日	第4回静岡T細胞研究会	リウマチ治療における循環型医療連携について～信頼関係構築による連携機能の最大化を目指して～	植木 幸孝
		当院におけるリウマチケア看護師の役割について～リウマチ療養支援・地域連携を中心として～	野口早由里
2015年 9月5～6日	第50回九州リウマチ学会	関節リウマチ治療中に発症したde novo肝炎の2例	植木 幸孝
		当院における生物学的製剤使用の変遷	荒牧 俊幸
		ペン型エタネルセプト補助具Eベース指導後の実態調査	野口早由里
		自己免疫性自律神経障害を合併したリウマチ性患者の2症例	梅田 雅孝
2015年 10月11日	第14回日本リウマチ実施医会	勤務医の立場から	植木 幸孝
2015年 10月15日	第24回東北リウマチ研究会	関節リウマチ患者における呼吸器感染症症例の検討	辻 創介
2015年 10月27日	第13回トシリズマブ適正研究会	当院におけるトシリズマブ長期使用例の検討	植木 幸孝
2015年 11月21～22日	第30回日本臨床リウマチ学会	循環型リウマチ医療連携の現状報告	植木 幸孝
		リウマチ性疾患患者のステロイド性骨粗鬆症に対するテリパラチドの治療効果	荒牧 俊幸
		長崎県北部におけるリウマチ医療連携「ララサークル」	加藤 陽子
2016年 2月19日	第14回県央膠原病研究会	当院におけるセルトリズマブ・ペゴルの使用経験～C-OPERAの症例解析をもとに～	荒牧 俊幸
2016年 3月5～6日	第51回九州リウマチ学会	長期間観察出来たBlau症候群の1家族5症例と孤発例1症例の経験～早期診断と早期治療の重要性	江口 勝美
		当院におけるトシリズマブ長期使用RA患者の検討	植木 幸孝
		急速な腎機能障害を伴い、血漿交換が著効した抗RNP抗体陽性SLEの1例	辻 創介

### 講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2015年 4月16日	長崎リウマチネットワーク研究会	Opening Remarks エタネルセプトの発売から10年を振り返る	江口 勝美
2015年 4月18日	リウマチチーム・ワークショップ KISOGAWA	よりよいリウマチ・チーム医療を目指して	植木 幸孝
2015年 5月13日	佐世保地区 薬剤師向研修会	関節リウマチの治療方針について	植木 幸孝

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2015年 5月28日	第16回長崎リウマチ・サイトカイン研究会	Opening Remarks インフリキシマブの発売から13年を振り返る	江口 勝美
2015年 6月17日	水戸Bone&Joint Meeting	生物学的製剤治療がリウマチ診療にもたらしたものの-チーム医療と医療連携、トシリズマブ皮下注製剤への期待-	植木 幸孝
2015年 6月25日	ゼルヤンツmeeting in 大分	マルチターゲット効果を有するトファシチニブを臨床でどのように使用するか	植木 幸孝
2015年 7月3日	第3回郡山リウマチネットワーク	リウマチ医療連携と生物学的製剤	植木 幸孝
2015年 7月17日	関節リウマチ懇話会(札幌)	マルチターゲット効果を有するトファシチニブを臨床でどのように使用するか	植木 幸孝
2015年 7月18日	第17回市民公開講座「関節リウマチ治療最前線」	関節リウマチにおける抗リウマチ薬の使い方	江口 勝美
2015年 7月29日	アバタセプト適正使用セミナー	当院におけるアバタセプトの使用経験	植木 幸孝
2015年 7月30日	As/PsA疾患研究会	今後の診断と治療をどうしていくべきか?	江口 勝美
2015年 8月21日	第4回リウマチクリニカルセミナー	強直性脊椎炎、乾癬性関節炎に関する最近の話題～リウマチ内科の立場から～	荒牧 俊幸
2015年 10月25日	DMARDsを語る会	イグランチモドのベストユース 症例提示	植木 幸孝
2015年 11月11日	八代市郡学術講演会	RA治療の連携の重要性	植木 幸孝
2015年 11月27日	リウマチ治療セミナー in SASEBO	Closing Lecture Abataceptの最近の動き	江口 勝美
2015年 11月28日	リウマチ治療のEBMとチームカンファランス	リウマチ治療のEBMとより良いチーム医療を目指して	植木 幸孝
2015年 12月9日	Biologics User's Forum on RA in 長崎	当院における生物学的製剤のマネジメント	植木 幸孝
2015年 12月12日	学術講演会 薬剤師会生涯教育単位取得講演会	リウマチ治療における循環型医療連携について	植木 幸孝
2015年 12月15日	Biologics User's Forum on RA in 長崎	Opening Remarks Bio投与最適症例を再考する	江口 勝美
2016年 2月10日	循環型地域連携講演会(平戸市)	強直性脊椎炎および乾癬性関節炎の最新診断・治療について	荒牧 俊幸
		ララサークルの現状報告と課題	加藤 陽子 野口早由里 菅沼 徳恵 植木友里子
2016年 2月13日	平戸市民公開講座	関節リウマチにおける抗リウマチ薬の使い方	江口 勝美

## 座長

会 期	学会・講演会名	演 題	講 師	座 長
2015年 4月25日	第59回日本リウマチ学会 総会・学術集会 ランチョンセミナー32	膠原病性肺高血圧症の診断と治療:自経験からの教訓と考察	聖マリアンナ医科大学 リウマチ・膠原病・アレルギー内科 講師 山崎 宜興先生	植木 幸孝
2015年 6月19日	高尿酸血症フォーラム in 佐世保	循環器内科からみた高尿酸血症の 治療意義～トピロキソスタット (ウリアデック®錠)の使用経験～	長崎大学病院 循環器内科 講師 小出 優史先生	植木 幸孝

会 期	学会・講演会名	演 題	講 師	座 長
2015年 6月29日	第41回県北膠原病研究会	リウマチ・膠原病疾患における 糖尿病治療	佐世保市立総合病院 糖尿病・内分泌内科 副医長 野中 文陽先生	植木 幸孝
		自己炎症候群の今後の展開	久留米大学医学部 呼吸器・神経・膠原病内科 教授 井田 弘明先生	江口 勝美
2015年 7月10日	第9回県北自己免疫疾患 フォーラム	関節リウマチのトピックス	長崎大学病院 第一内科 教授 川上 純先生	植木 幸孝
2015年 10月1日	県北リウマチネットワーク研 究会	RA診療における看護師の役割 ～リウマチ看護師に求められるもの～	長崎大学病院 第一内科 教授 川上 純先生	植木 幸孝
		これからのRA診療が目指すもの	医療法人和香会 倉敷スイートホスピタル 副院長 リウマチセンター長 棗田 将光先生	植木 幸孝
2015年 10月15日	第24回県北リウマチ研究 会	関節リウマチ患者における 呼吸器感染症症例の検討	佐世保中央病院 リウマチ膠原病センター 辻 創介	植木 幸孝
		リウマチ上肢の手術療法と問題点	佐世保中央病院 リウマチ膠原病センター 辻 創介	植木 幸孝
2015年 11月18日	第6回長崎県北肺高血圧症 研究会	膠原病性肺高血圧症の現況	長崎労災病院 整形外科 副部長 本田 祐造先生	植木 幸孝
2015年 11月26日	学術講演会-肺高血圧最前 線-	CTD-PH 診断と治療の現状	香川大学医学部附属病院 膠原病・リウマチ内科 講師 土橋 浩章先生	植木 幸孝
2015年 11月27日	2015リウマチ治療セミ ナー in SASEBO	関節リウマチにおける関節破壊 機序とその治療	広島大学病院 リウマチ膠原病科 教授 杉山 英二先生	植木 幸孝

## 論文

題 名	掲 載 誌	著 者
Increased prevalence of MEFV exon 10 variants in Japanese patients with adult-onset Still's disease	Clin Exp Immunol 179:392-397,2014	F.Nonaka, K.Migita, Y.Jiuchi, T.Shimizu, <u>M.Umeda</u> , <u>N.Iwamoto</u> , K.Fujikawa, Y.Izumi, A.Mizokami, M.Nakashima, <u>Y.Ueki</u> , M.Yasunami, A.Kawakami and <u>K.Eguchi</u>
Two cases of refractory polymyositis accompanied with steroid myopathy	Mod Rheumatol 25(1)143-149,2015	Izumi Y, Miyashita T, Kitajima T, Yoshimura S, Takeoka A, <u>Eguchi K</u> , Motomura M, Kawakami A, Migita K
Early response to certolizumab pegol predicts long-term outcomes in patients with active rheumatoid arthritis:results from the Japanese studies	Mod Rheumatol 25(1):11-20,2015	Takeuchi T, Yamamoto K, Yamanaka H, Ishiguro N, Tanaka Y, <u>Eguchi K</u> , Watanabe A, Origasa H, Shoji T, Miyasaka N, Koike T
Dysregulated mature IL-1 $\beta$ production in familial Mediterranean fever	Rheumatology(Oxford) 54(4):660-665,2015	Migita K, Izumi Y, Fujikawa K, Agematsu K, Masumoto J, Jiuchi Y, Kozuru H, Nonaka F, Shimizu T, Nakamura T, Iwanaga N, Furukawa H, Yasunami M, Kawakami A, <u>Eguchi K</u>

題 名	掲 載 誌	著 者
Identification of Disease-Promoting HLA Class I and Protective Class II Modifiers in Japanese Patients with Familial Mediterranean Fever	PLoS One. 2015 May 14;10(5):00125938	Yasunami M, Nakamura H, Agematsu K, Nakamura A, Yazaki M, Kishida D, Yachie A, Toma T, masumoto J, Ida H, Koga T, Kawakami A, <u>Eguchi K</u> , Furukawa H, Nakamura T, Nakamura M, Migita K
The first double-blind,randomised,parallel-group certolizumab pegol study in methotrexate-naïve early rheumatoid arthritis patients with poor prognostic factors,C-OPERA,shows inhibition of radiographic progression	ARD Online First,publishod on July 15,2015 as 10.1136/annrhoumdis-2015-207511	Tatsuya Atsumi, Kazuhiko Yamamoto, Tsutomu Takeuchi, Hisashi Yamanaka, Naoki Ishiguro, Yoshiya Tanaka, <u>Katsumi Eguchi</u> , Akira Watanabe, Hideki Origasa, Shinsuke Yasuda, Yuji Yamanishi, Yasuhiko Kida, Tsukasa Matsubara, Masahiko Iwamoto, Toshiharu Shoji, Toshiyuki Okada, Desiree van der Heijde, Nobuyuki Miyasaka, Takao Koike
Analysis of bone metabolism during early stage and clinical benefits of early intervention with alendronate in patients with systemic rheumatic diseases treated with high-dose glucocorticoid:Early Dlagnosis and Treatment of OsteopoRosis in Japan(EDITOR-J)study	J Bone Miner Metab. 2015 Aug 26[Epub ahead of print]	Tanaka Y, Mori H, Aoki T, Atsumi T, Kawahito Y, Nakayama H, Tohma S, Yamanishi Y, Hasegawa H, Tanimura K, Negoro N, <u>Ueki Y</u> , Kawakami A, <u>Eguchi K</u> , Saito K, Okada Y
Post-hoc analysis showing better clinical response with the loading dose of certolizumab pegol in Japanese patients with active rheumatoid arthritis	Mod Rheumatol. 2015 Dec 14:1-8 [Epub ahead of print]	Tsutomu Takeuchi, Kazuhiko Yamamoto, Hisashi Yamanaka, Naoki Ishiguro, Yoshiya Tanaka, <u>Katsumi Eguchi</u> , Akira Watanabe, Hideki Origasa, Mariko Kobayashi, Toshiharu shoji, Osamu Togo, Nobuyuki Miyasaka & Takao Koike
Evaluation of switching from intravenous to subcutaneous formulation of tocilizumab in patients with rheumatoid arthritis	Mod Rheumatol. 2016 Feb 16:1-5 [Epub ahead of print]	Iwamoto N, Fukui S, <u>Umeda M</u> , Nishino A, Nakashima Y, Suzuki T, Horai Y, Nonaka F, Okada A, Koga T, Kawashiri SY, Fujikawa K, <u>Aramaki T</u> , <u>Ichinose K</u> , Hirai Y, Tamai M, Nakamura H, <u>Terada K</u> , Nakashima M, Mizokami A, Origuchi T, <u>Eguchi K</u> , <u>Ueki Y</u> , Kawakami A
RS3PE症候群(Reimitting Seronegative Symmetrical Synovitis with Pitting Edema)	九州リウマチ 35(1):1-6,2015	折口 智樹・有馬 和彦・川尻 真也 古賀 智裕・玉井 慎美・中村 英樹 川上 純・塚田 敏昭・宮下賜一郎 藤川 敬太・溝上 明成・岩永 希 古山 雅子・中島 宗齡・河部庸次郎 荒牧 俊幸・植木 幸孝・福田 孝昭 <u>江口 勝美</u>
RAの予後予測	リウマチクリニックQ&A集成 P32 編集:リウマチ実地医会 メディカルレビュー社2015年3月発行	<u>江口 勝美</u>
家族性地中海熱(FMF)	自己炎症症候群の臨床 44-51,2015.4.28発行	右田 清志・和泉 泰衛・ <u>江口 勝美</u> 上松 一永

題名	掲載誌	著者
中枢・末梢連合脱髄症 (combined central and peripheral demyelination)の1例	臨床神経学 55(6):389-394,2015	野中 俊章・藤本 武士・江口 勝美 福田 安雄・吉村 俊朗
抗グルタミン酸受容体(GluR&2)抗体が検出された非ヘルペス性急性辺縁系脳炎を合併した両側耳介軟骨炎の1例	臨床神経学 55(6):395-400,2015	西口 亮・藤本 武士・江口 勝美 福田 安雄・高橋 幸利
関節リウマチに対するセルトリズマブペゴル自己注射の安全性、有効性および継続率	リウマチ科 54(6):674-682,2015	山本 一彦・竹内 勤・山中 寿 石黒 直樹・田中 良哉・江口 勝美 小路 利治・藤後 修・宮坂 信之 小池 隆夫
MEFV遺伝子多型/変異の自己炎症発症への役割	佐世保市医師会報 第148号 4-10,2015	江口 勝美・野中 文陽・清水 俊匡 住吉 玲美
リウマチ患者さんの心得10カ条	リウマチ学のすすめ —分子リウマチ治療「私とリウマチ学」から— 監修[分子リウマチ治療]編集委員会先端医学社:2015年9月1日発行	江口 勝美
TNF阻害薬を導入し、血糖コントロールが改善した関節リウマチ合併2症例2型糖尿病の3例	DIABETES JOURNAL 糖尿病と代謝 43(4):147-152,2015	野中 文陽・清水 俊匡・尾崎 方子 右田 清志・江口 勝美

## 糖尿病センター

### 学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2015年 5月21日~24日	第58回 日本糖尿病学会年次学術集会	糖尿病患者の肺炎の起炎菌に関する院内サーベイランス調査	松本 一成
		従来の利尿薬による治療が困難な糖尿病性ネフローゼ症候群に対するトルバプタンの使用経験	森 良孝
		不安定プラークを有すると思われる糖尿病患者の臨床的特徴について	二里 哲朗
2015年 11月27日~28日	第53回 日本糖尿病学会九州地方会	有病性神経障害に対する薬物のvisual analogue scaleによる評価	松本 一成
		糖尿病性腎症第2期の2型糖尿病患者における5年後のeGFRの変化	重野里代子
		エキセナチド週1回皮下注射で長期間の血糖管理が改善した認知症合併糖尿病患者の1例	二里 哲朗

### 講演会・セミナー

会期	学会名	演題	講師
2015年 4月17日	日本イーライリリー(株)共催講演会	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話 —糖尿病コーチング—	松本 一成
2015年 4月18日	第21回 北海道CDEスキルアップセミナー	糖尿病患者さんのやる気を引き出す技法 —糖尿病コーチング—	松本 一成
2015年 5月8日	糖尿病フォーラム in 八幡	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話 —糖尿病コーチング—	松本 一成
2015年 5月12日	Kurume Ooen Cardiology Meeting	糖尿病患者さんを主体的にする対話 —コーチング—	松本 一成

会期	学会名	演題	講師
2015年 5月15日	第15回 糖尿病医療連携の会	食後高血糖は本当に危険なのか? -糖尿病治療のABCDE2とは?-	松本 一成
2015年 5月29日	日本イーライリリー(株)主催 講演会	糖尿病患者さんが自らインスリン治療を選ぶ ~動機づけ面接法~	松本 一成
2015年 6月3日	第6回 唐津医師・糖尿病療養 チーム 合同カンファレンス	糖尿病コーチングを応用する -第2回 タイプ別対応法-	松本 一成
2015年 6月5日	静岡糖尿病セミナー	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話法 -コーチングの使い方-	松本 一成
2015年 6月9日	東区内科医会学術講演会	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話 -糖尿病コーチング-	松本 一成
2015年 6月10日	伊万里・有田地区三師会 学術講演会	食後高血糖は本当に危険なのか? -糖尿病治療のABCDE2とは?-	松本 一成
2015年 6月12日	糖尿病療養指導講演会	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話 -糖尿病コーチング-	松本 一成
2015年 6月20日	日本臨床コーチング研究会 スキルアップセミナー 第2回 北海道セミナー 2015 in さっぽろ	糖尿病患者の心理指標とコーチングによる介入	松本 一成
2015年 6月26日	DM Coaching Seminar in takamatsu	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話法 ~糖尿病コーチング~	松本 一成
2015年 6月27日	糖尿病患者と向き合う研究会	糖尿病患者さんの行動変容 ~行動療法を利用する~	松本 一成
2015年 7月3日	岡崎市医師会学術講演会	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話法 ~糖尿病コーチング~	松本 一成
2015年 7月18日	第21回 看護診断学会 ランチョンセミナー3	あなたにもできる -働きやすい職場のつくりかたコーチング-	松本 一成
2015年 7月24日	第2回 糖尿病治療セミナー	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話法 ~コーチングの使い方~	松本 一成
2015年 7月25日	第3回 糖尿病療養指導スキル アップミーティング in 岡山	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話 -糖尿病コーチング-	松本 一成
2015年 7月31日	糖尿病ケアフォーラム in 別府	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話 -糖尿病コーチング-	松本 一成
2015年 8月21日	糖尿病看護の実務研修	メディカルサポートコーチング	松本 一成
2015年 8月25日	兵庫糖尿病ネットワークセミナー	糖尿病患者さんを主体的にする対話法 -糖尿病コーチング-	松本 一成
2015年 8月28日	糖尿病療養指導を考える会	糖尿病患者さんを主体的にする対話術 ~糖尿病コーチング~	松本 一成
2015年 8月29日	第4回 長崎医療面接コーチング セミナー~あなたと快適な10分 を過ごすために~	タイプ別 糖尿病コーチング	松本 一成
2015年 8月30日	~進化する糖尿病治療2015~ Day 2: グラルギンリリー講演会	患者さんがインスリン治療を受け入れやすくなる 対話術	松本 一成
2015年 8月31日	長崎県北糖尿病学術講演会	糖尿病患者さんが自らインスリン治療を 受け入れやすくなる対話術~動機づけ面接法~	松本 一成
2015年 9月3日	第2回 開業医の為に糖尿病 治療の会	タイプ別糖尿病患者さんのやる気の引き出し方	松本 一成
2015年 9月6日	第9回 島根県糖尿病協会 療養指導研修会	方法から始める糖尿病の医療面接 -コーチングの使い方-	松本 一成
2015年 9月11日	第2回 Clinical Science Seminar	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話法 ~コーチングの使い方~	松本 一成
2015年 9月12日	糖尿病コーチングセミナー	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話法 ~糖尿病コーチング~	松本 一成



会 期	学 会 名	演 題	講 師
2015年 9月15日	大村地域連携研修会 糖尿病コーチング	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話 ～糖尿病コーチング～	松本 一成
2015年 9月18日	DM net ONE学術講演会	糖尿病患者さんを主体的にする対話法 ～糖尿病コーチング～	松本 一成
2015年 9月29日	第30回 糖尿病診療を考える会	糖尿病患者の死因 死亡した症例 ～血管症例～	松本 一成 二里 哲朗
2015年 9月30日	第6回 佐賀糖尿病学術講演会	患者さんがインスリン治療を受け入れやすくなる 対話 ～動機付け面接法～	松本 一成
2015年 10月3日	看護実践能力養成研修	あなたがかかわれば患者さんが変わる ～糖尿病コーチング～	松本 一成
2015年 10月7日	第7回 唐津医師・糖尿病療養 チーム 合同カンファレンス	糖尿病にコーチングを応用する ～第3回 動機づけ面接法でインスリン治療を勧める～	松本 一成
2015年 10月17日	第37回 長崎糖尿病地域医療 研究会	周術期の血糖コントロール	松本 一成
2015年 10月25日	新たなインスリン治療を考える会	患者さんがインスリン治療を受けやすくなる対話 ～動機づけ面接法～	松本 一成
2015年 10月26日	北松浦医師会学術講演会	糖尿病の治療 ～ABCDE3～	松本 一成
2015年 10月29日	長崎市・西彼杵郡 E-Quality Meeting	糖尿病の治療 ～ABCDE3～	松本 一成
2015年 10月30日	水俣芦北糖尿病療養指導講演会	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話 ～糖尿病コーチング～	松本 一成
2015年 10月31日	第10回 九州DM検査セミナー	糖尿病患者さんの行動変容 ～行動療法を利用する～	松本 一成
2015年 11月6日	大分県糖尿病学術講演会	患者さんがインスリン治療を受け入れやすくなる 対話 ～動機付け面接法～	松本 一成
2015年 11月13日	第25回 福岡糖尿病と代謝セミナー	糖尿病治療のABCDE3	松本 一成
2015年 11月18日	平戸市医師会学術講演会	糖尿病治療 ～ABCDE3～	松本 一成
2015年 11月21日	石巻糖尿病コーチングセミナー	患者さんのやる気を引き出す対話法 ～糖尿病コーチング～	松本 一成
2015年 12月2日	糖尿病の個別化治療研究会	糖尿病コーチング ～タイプ分けを知ると苦手が少なくなる～	松本 一成
2015年 12月6日	佐賀県地域肝炎コーディネーター フォローアップ研修会	患者さんのやる気を引き出す対話 ～コーチング～	松本 一成
2015年 12月11日	DCST Conference ～糖尿病の チーム医療について考える～	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話 ～糖尿病コーチング～	松本 一成
2015年 12月12日	第19回 佐賀糖尿病連携懇話会	あの糖尿病患者さんにはこう対応する ～糖尿病コーチング・タイプ分け編～	松本 一成
2015年 12月19日	糖尿病コーチングセミナー	患者さんのやる気を引き出す対話法 ～糖尿病コーチング～	松本 一成
2016年 1月27日	第54回 長崎県県央懇話会	糖尿病治療のABCDE3	松本 一成
2016年 1月30日	第60回 九州糖尿病懇親会 のご案内	当院における糖尿病と肺炎に関する調査報告	重野 里代子
2016年 1月30日	糖尿病重症化予防(フットケア) 研修	糖尿病患者の足病変 ～病態生理から治療まで	松本 一成
2016年 2月7日	第3回 DM Basic Seminar in Okinawa	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話法 ～糖尿病コーチング～	松本 一成
2016年 2月12日	第39回 天草生活習慣病研究会	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話 ～糖尿病コーチング～	松本 一成

会期	学会名	演題	講師
2016年 2月24日	飯塚医師会糖尿病学術講演会	糖尿病治療のABCDE3とは?	松本 一成
2016年 3月1日	Incretin Seminar in 伊万里・有田	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話 ～糖尿病コーチング～	松本 一成
2016年 3月22日	第31回 糖尿病診療を考える会	認知症になりやすい糖尿病患者は?	森 芙美

## 消化器内視鏡センター

### 学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2015年 5月21日～23日	第51回日本肝臓学会総会	肝細胞癌における造影パターンと腫瘍硬度 及び悪性度との関連の検討	加茂 泰広
2015年 6月19日～20日	第105回日本消化器病学会 九州支部例会	難治性高アンモニア血症に対して行った バルーン閉塞下逆行性経静脈的術塞栓術(BRTO) の一例	田島 和昌
	第99回日本消化器内視鏡学会 九州支部例会		
2015年 8月22日	第23回日本大腸検査学会 九州支部会	潰瘍性大腸炎に合併した直腸カルチノイドの一例	田島 和昌
2015年 12月4日～5日	第106回日本消化器病学会 九州支部例会	肝動脈塞栓術後の経過観察中に病変の消失を 認めた門脈腫瘍塞栓を伴う肝細胞癌の1例	岩津 伸一
	第100回日本消化器内視鏡学会 九州支部例会		
2015年 12月4日～5日	第106回日本消化器病学会 九州支部例会	異なる経過を辿った動脈腸管瘻の3例	田島 和昌
	第100回日本消化器内視鏡学会 九州支部例会		
2016年 2月21日	JSS九州第22回地方会 学術集会	消化器疾患における超音波エラストグラフィ	加茂 泰広
2016年 3月12日	第36回長崎炎症性腸疾患研究会	大腸潰瘍	岩津 伸一
2016年 3月16日	第261回長崎県北胃と腸の会	食道平滑筋種々の一例	田島 和昌
2016年 3月24日	第8回長崎消化器内視鏡治療 研究会	当院における膵癌スクリーニングの現況	松崎 寿久

### 講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2015年 4月15日	南高医師会第一区勉強会	消化性潰瘍の治療歴史、 これからの展望について	木下 昇
2015年 5月12日	ギリアド・サイエンシズ(株)社内勉強会	C型慢性肝炎の新しい治療戦略	木下 昇
2015年 5月28日	味の素製薬(株)長崎営業所社内研修会	慢性膵炎治療と最新のガイドラインに ついて	松崎 寿久/加茂 泰広
2015年 7月29日	佐世保地区学術講演会 ～C型慢性肝炎～	当院でのGenotype2型C型慢性肝炎 に対するIFNβ治療	加茂 泰広
2015年 8月18日	武田薬品工業(株)社外講師勉強会	ESD後、出血性潰瘍後の院内パス	小田 英俊

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2015年 8月18日	武田薬品工業(株)社外講師勉強会	H.Pylori 除菌療法について	松崎 寿久
2015年 10月23日	社内勉強会in佐世保 (プリストルマイヤーズ株式会社)	HBV領域における地域連携(医療連携) と薬物治療	松崎 寿久
2015年 12月10日	IBDミニカンファランス 佐世保	ESDIによるUC憎悪が疑われた 5-ASAアレルギーの一例	岩津 伸一
2016年 1月12日	社外講師勉強会 (アツヴィ合同会社肝炎事業本部)	最新のC型肝炎治療について	木下 昇
2016年 1月28日	味の素製薬(株)長崎営業所 社内研修会	DAA治療時代における肝硬変治療に ついて	松崎 寿久/加茂 泰広

## 座長

会 期	学会・講演会名	演 題	講 師	座 長
2015年 6月3日	第3回県北DAA研究会 学術講演会	C型肝炎について	九州医療センター 中牟田 誠先生	木下 昇
2015年 7月27日	佐世保地区便通異常学術 講演会	下痢と便秘 便通異常の診方	長崎大学病院 消化器内科 竹島 史直先生	木下 昇
2015年 7月29日	佐世保地区学術講演会 ～C型慢性肝炎～	当院でのGenotype2型 C型慢性肝炎に対するIFNβ治療	加茂 泰広	木下 昇
2015年 9月29日	県北肝硬変治療学術講演会	肝硬変の自然経過と治療介入 ～サムスカの位置づけ～	独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター 八橋 弘先生	木下 昇
2015年 11月24日	第4回県北DAA研究会 学術講演会	DAA製剤によるC型肝炎の テーラーメイド医療	長崎大学病院 消化器内科 中尾 一彦先生	木下 昇
2016年 3月1日	長崎県北消化器病研究会	これからのC型肝炎治療	長崎大学大学院 医歯薬学 総合研究科 中尾 一彦先生	木下 昇
2016年 3月11日	肝硬変治療を考える in sasebo	当院における難治性腹水に対する 治療方針	長崎大学病院 消化器内科 宮明寿光先生	木下 昇
2016年 3月18日	佐世保肝臓栄養療法 セミナー	NASHのガイドライン	大分大学医学部附属病院 肝疾患相談センター 清家 正隆先生	木下 昇
2016年 3月16日	第261回長崎県北胃と 腸の会	食道平滑筋種の一例	田島 和昌	小田 英俊
2016年 3月24日	第8回長崎消化器内視鏡 治療研究会	当院における膵癌スクリーニング の現況	松崎 寿久	小田 英俊

## 循環器内科

## 講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2015年 4月16日	第173回経過報告会	「当院における心筋虚血への取り組み」	本田 智大
2015年 6月30日	武田薬品工業(株)社外講師勉強会		木崎 嘉久
2015年 10月9日	第4回県北循環器連携パス 学術講演会	「連携パス症例の報告」	木崎 嘉久
2015年 10月26日	外来講師勉強会	「心房細動治療および抗凝固療法について」	中尾功二郎

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2016年 3月29日	武田薬品工業(株)社外講師勉強会	「脂質管理の実際(生活習慣の改善から薬物療法まで)」	木崎 嘉久
2016年 3月30日	TERUMO 症例検討会 in SASEBO	症例検討	落合 朋子

## 座長・コメンテーター

会 期	学会・講演会名	演 題	講 師	座 長
2015年 4月3日	第8回県北周術期管理 懇話会	「術前より頻脈を認めた低心機能 ACSに対してオノアクトが有効で あった1例」	佐世保市立総合病院 心臓血管外科 久田 洋一先生	木崎 嘉久
2015年 5月28日	Cardiovascular Disease Forum in SASEBO	「拡張不全の病態と治療戦略」	岡山大学大学院医歯薬学総 合研究科 循環器内科学 教授 伊藤 浩先生	木崎 嘉久
2015年 6月18日	第175回経過報告会	「認知症対応力向上のための 認知症勉強会へのお誘い」他	当院認知症センター 井手 芳彦 他	木崎 嘉久
2015年 7月17日	第48回県北臨床循環器 懇話会	「心房細動治療を再考する -β遮断薬のエビデンスと意義-」	日本医科大学大学院 医学研究科 循環器内科学 分野 大学院教授 清水 渉先生	木崎 嘉久
2015年 7月17日	第48回県北臨床循環器 懇話会	「当院で経験したカテーテル治療に 伴った合併症症例の検討と対策」他	佐世保市立総合病院 看護部放射線科 久田 愛先生他	木崎 嘉久
2015年 7月30日	第24回日本心血管イン ターベンション治療学会 CVIT2015学術集会	「女性ホルモン、腫瘍マーカーと 子宮動脈塞栓術における関連性」	釧路考仁会記念病院 石川 浩先生	中尾功二郎
2015年 9月15日	佐世保中央病院PCI セミナー	「CTO治療のトレンド&DESの 今後について」	社会医療法人天神会 新古賀病院 副院長 川崎 友裕先生	木崎 嘉久
2015年 10月9日	第4回県北循環器連携パス 学術講演会	「循環器疾患における病診連携、 病病連携-当院での取り組み-」	大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院 循環器内科 主任部長 門田 一繁先生	木崎 嘉久
2016年 3月30日	TERUMO 症例検討会 in SASEBO		福岡和白病院 循環器内科 部長,CCU室長 大塚 頼隆先生	木崎 嘉久

## 症例検討会

会 期	会 議 名
2015年4月28日	第67回県北ハートカンファランス
2015年6月23日	第68回県北ハートカンファランス
2015年10月7日	第69回県北ハートカンファランス
2016年2月2日	第70回県北ハートカンファランス

## 世話人会

会 期	会 議 名
2015年7月13日	第6回県北循環器連携パス世話人会
2015年11月18日	第6回長崎県北肺高血圧症研究会世話人会

会 期	会 議 名
2016年2月8日	第7回県北循環器連携パス世話人会
2016年3月12日	第10回長崎心臓リハビリテーション研究会世話人会

## 論文

題 名	掲 載 誌	著 者
Coronary Artery Pseudoaneurysm due to Medial Mucoïd Degeneration Mimicking an Intra-atrial Mass	Internal Medicine Vol.54(2015) No.19 Case Reports P.2453-2458 October 01.2015	T.Honda, H.Kawano, A.Tsuneto, T.Nakata, T.Yoshida, S.Koga, S.Ikeda, K.Abe, T.Hayashi, S.Yokose, K.Eishi and K.Maemure
カテコラミン心筋症を契機に発見された傍神経節腫の1例	臨床放射線 Vol.60 No.12 2015	堀上 謙作・末吉 真・平尾 幸一 本田 智大・木崎 嘉久・計屋 知彰 竹原 浩介・安倍 邦子

## 外 科

### 学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	発表者
2015年 5月8日～9日	第52回九州外科学会	比較的長期間生存した直腸内分泌細胞癌の1例	重政 有
		胃粘膜下腫瘍に対し腹腔鏡内視鏡同胃局所切除を施行した4症例	草場 隆史
		大網に発生したCastleman病の1例	村田 和樹
2015年 6月11日～13日	第27回日本肝胆膵外科学会・ 学術集会	胃癌術後、経過観察中に認めた肝inflammatory	重政 有
2015年 7月15日～17日	第70回日本消化器外科学会総会	肝inflammatory pseudumorの3例	重政 有
2015年 10月8日～11日	第13回日本消化器外科学会大会	大腸癌StageⅡ/Ⅲ症例における術中腹腔洗浄細胞診陽性例の検討	重政 有
2015年 10月29日～31日	第53回日本癌治療学会学術集会	大腸癌における術中洗浄細胞診の臨床病理学的意義	重政 有
2015年 11月13日～14日	第70回日本大腸肛門病学会 学術集会	術後早期に多発性肝転移を認めた盲腸内分泌細胞癌と集学的治療により比較的長期生存がえられた術前肝転移を有した直腸内分泌細胞癌の2例	重政 有
2015年 11月26日～28日	第77回日本臨床外科学会総会	結腸直腸患者における腹腔洗浄細胞診の予後的意義	重政 有
		膵リンパ上皮嚢胞の1切除例	内田 史武
		ショックをきたした出血性Meckel憩室に対して腹腔鏡下手術を施行した1例	鋺尾 智幸

## 整形外科

### 講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2016年 2月25日	県北地区理学療法士研修会	肩関節疾患について	北原 博之

## 脳神経外科

### 学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	発 表 者
2015年 6月27日	第120回日本脳神経外科学会 九州支部会	アテローム血栓性中大脳動脈閉塞症に対し ステントリトリーバーで再開通療法を行った2例	福本 博順
2015年 6月30日	第121回県北神経懇話会	BADに対する当院での治療方針 ～t-PA静注を含めて～	竹本光一郎
		経鼻経管チューブによる機械的刺激が誘因となり 門脈内ガスを伴った急性胃蜂窩織炎の一例	藤原 史明
2015年 9月1日	第122回県北神経懇話会	症候性肺動静脈瘻に対しコイル塞栓術を施行した 2例	藤原 史明
2015年 10月14日	脳神経外科学会第74回学術総会	当院での慢性被膜化血腫5例に対する治療経験	榎本 年孝
2015年 10月31日	第121回日本脳神経外科 九州支部会	シルビウス裂内髄膜腫の一例	榎本 年孝
2015年 11月19日	第31回日本脳神経血管内治療 学会学術総会	アテローム血栓性中大脳動脈閉塞症に対し ステントリトリーバーで再開通療法を行った3例	福本 博順 竹本光一郎 藤原 史明 榎本 年孝 阪元政三郎 東 登志夫 井上 亨
2015年 12月1日	第123回県北神経懇話会	DWI-T2WIfusion 画像が診断に有用であった 脊髄梗塞の一例	榎本 年孝
2016年 3月11日	第124回県北神経懇話会	心室内巨大器質化血栓に伴う後大脳動脈 P1穿通枝梗塞の一例	高木 友博
2016年 3月12日	第122回日本脳神経外科 九州支部会	嚢胞内出血で発症した延髄外側腫瘤の一例	榎本 年孝

### 論文

題 名	掲 載 誌	著 者
Successful sinus restruction for transverse-sigmoid sinus dural arteriovenous fistula complicated by multiple venous sinus occlusion:The usefulness of preoperative computed	Surgical Nurol Int 18(6):137,2015	Takemoto K, Higashi T, Sakamoto S, Inoue T
上腕動脈直接穿刺による経上腕的 頸動脈ステント留置術の一例	JNET 9(4):213-218,2015	高原 正樹・竹本光一郎・小林 広昌 阪元政三郎・中路 俊・東 登志夫 井上 亨

題名	掲載誌	著者
Correlation of clot imaging with endovascular recanalization in internal carotid artery terminus occlusion	J Neurointerv Surg 7(2):131-4,2015	Fujimoto M, Salamon N, <u>Takemoto K</u> , Takao H, Song L, Tateshima S, Vinuela F
神経線維腫症I型に合併し、側脳室内に伸展したgangliogliomaの一例	/No Shinkiei geka, 43(2):147-152,2015	榎本 年孝・福島 浩・吉野慎一郎 平川 勝之・福島 武雄・青木光希子 鍋島 一樹・継 仁・東 登志夫 井上 亨
Trans-cerebellomedullary fissure approachの有用性	脳神経外科ジャーナル 24(11)761-769,2015	安部 洋・福田 健治・大川 将和 野中 将・勝田 俊郎・東 登志夫 竹本光一郎・阪元政三郎・岩朝 光利 井上 亨

## 心臓血管外科

### 学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2015年 6月4日	第43回日本血管外科学会 学術集会	当院における下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術 (EVLA)開始に伴う診療体制の整備	中路 俊
2015年 9月7日	International Union of Angiology 2015	Transcatheter arterial embolization of anomalous systemic arterial supply to the normal basal segment of the left lung.	谷口真一郎
2015年 10月30日	第56回日本脈管学会総会	DeBakey Ⅲ型逆行性解離による腕頭動脈破裂の 一救命例	谷口真一郎
2015年 12月2日	第28回日本外科感染症学会総会 学術集会	腹部大動脈瘤術後8年目に発症した二次性大動脈 十二指腸瘻の1例	谷口真一郎

### 講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2015年 7月29日	第一三共社員研修会	DVTの治療・病態について	谷口真一郎
2015年 9月20日	下肢静脈瘤市民セミナー	下肢静脈瘤の話～足がむくんだり、血管がポコポコ 浮き出ていませんか?～	中路 俊
2016年 1月25日	第30回心臓血管外科 ウインターセミナー学術集会	脳梗塞を契機に発見された心筋梗塞後左心室瘤内 血栓症の一例	中路 俊

## 小児科

### 学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2015年 4月12日	第194回日本小児科学会 長崎地方会	朝起き不良を示す小児に対する高照度光療法の 有効性	犬塚 幹
2015年 4月17日～19日	第118回日本小児科学会 学術集会	起立性調節障害に対する漢方薬の有効性について	犬塚 幹
2015年 5月28日～30日	第57回日本小児神経学会 学術集会	朝起き不良を示す起立性調節障害例に対する 高照度光療法の有効性	犬塚 幹

会期	学会名	演題	発表者
2015年 7月26日	第195回日本小児科学会 長崎・佐賀合同地方会	発達障害例の興奮・衝動性に対する柴胡加竜骨 牡蛎湯の有効性	犬塚 幹
2015年 10月30日	第49回日本てんかん学会 学術集会	発作時に除脈、呼吸停止、笑いを示した MCT8欠損症の1例	犬塚 幹
2014年 12月20日	第196回日本小児科学会 長崎地方会	心因性発作を合併し、治療に難渋した 前頭葉てんかんの6歳女兒	犬塚 幹
2015年 12月20日	第197回日本小児科学会 長崎地方会	発達障害を有する肥満小児7例に対する行動療法	山田 克彦

### 講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2015年 5月14日	長崎県北小児科医会 第114回学術講演会	平成26年入院症例の検討と新たな取り組みについて	山田 克彦
2015年 8月18日	佐世保市内養護教諭対象の講義	ODの病態や高照度光療法についての話	犬塚 幹
2015年 10月23日	学校における現代的な健康課題 解決支援事業	小学生から始める生活習慣病予防 ～早寝・早起き・朝ごはん～	山田 克彦
2015年 11月12日	長崎県北小児科医会 第118回学術講演会	改訂版ODガイドラインの概説、ODと不登校、 高照度光療法について	犬塚 幹
2015年 11月24日	学校における現代的な健康課題 解決支援事業	早寝・早起きの話	犬塚 幹

## 耳鼻咽喉科

### 講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2016年 3月17日	第234回 佐世保耳鼻科会	難知性口内炎について	大里 康雄

## 放射線科

### 学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2015年 8月2日	第28回九州山口 ハイパーサーミア研究会	切除不能膀胱癌に対する温熱化学療法 —その1:病期別治療成績—	平尾 幸一
2015年 8月2日	第28回九州山口 ハイパーサーミア研究会	切除不能膀胱癌に対する温熱化学療法 —その2:温熱療法の実施回数による治療成績の検討—	平尾 幸一

### 講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2015年 4月17日	テクマトリックスユーザー会	ガイドラインに準じたHISの運用	平尾 幸一



## 論文

題 名	掲 載 誌	著 者
3省のガイドラインに準じた医療情報システムの運用体制構築	新医療 2015年7月号	平尾 幸一
カテコラミン心筋症を契機に発見された傍神経節腫の1例	臨床放射線 2015年11月号(60巻12号)	堀上 謙作

## 認知症疾患医療センター

## 学会・研究会

会 期	学会・研究会名	演 題	発表者
2015年 9月25日	日本認知症予防学会	パレイドリアテストの有用性	井手 芳彦

## 講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2015年 4月3日	北松医師会講演会	睡眠障害と認知症ケアパス	井手 芳彦
2015年 5月30日	西日本認知症サミット in Fukuoka		井手 芳彦
2015年 7月3日	慢性疾患医療研究会	睡眠障害と認知症	井手 芳彦 (司会・講師)
2015年 7月4日	レミニールOpinion Leader Meeting		井手 芳彦 (コメンテーター)
2015年 7月13日	認知症診療医勉強会	認知症診療のポイント	井手 芳彦 (司会・講師)
2015年 7月18日	日本医師会生涯教育講座	佐世保市における認知症治療・介護への取り組み	井手 芳彦
2015年 7月27日	H27年度認知症介護実践研修	認知症高齢者の理解と生活のとらえ方	井手 芳彦
2015年 8月23日	市民公開講座	知っていますか、レビー小体型病	井手 芳彦 (主催・講師・役者)
2015年 9月19日	長崎嚥下研究会例会	認知症と摂食嚥下障害	井手 芳彦
2015年 9月19日	Dementiaサミット in 長崎		井手 芳彦

## 座長

会 期	学会・講演会名	演 題	講 師
2015年 9月25日	日本認知症予防学会	ランチョンセミナー	井手 芳彦
2015年 9月26日	日本認知症予防学会	一般演題	井手 芳彦

## 健康増進センター

### 座長

会 期	学会・講演会名	演 題	講 師
2015年 7月30・31日	第56回日本人間ドック学会学術大会	一般演題	中尾 治彦
2016年 3月12・13日	第17回九州予防医学研究会	ワークショップ	中尾 治彦